明治三十一年十一月廿五日

女學雜誌

第四百七十六號

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

第四百七十六號目次

◎社說
當年の勤王論者
財政困難
◎評論
廢娼是非　嶋村
沙翁新論　青柳有美
◎女學
楊貴妃論　長汀漁史
蓄妾問題の新研究（蓄妾者の自分職業と妾の素性）　山形東根
◎隨感
至誠は善行にあらず◎至誠必ず學ぶ◎戀愛のまこと◎教書の醜體◎簡短なる信條◎鶴や私なし◎木の葉の涙雨
◎教育
文部大臣論
教化の契機は至て簡短なり
◎雜錄
『冥途の飛脚』を讀む　八濱掬泉
桐葉片々（英雄世に出づるは不祥◎時世を識るは巖穴の士◎哀しき從軍記者）
杓子定規　きよくは
◎時文
文界漫評　なにがし
（國字改良論◎日本製の漢字支那に入る◎新聞紙は面白くなし◎忠孝を振廻す）
眼病トラホーム論◎兒童研究第一號◎新小說
◎片々◎時報

社告

◎本誌は毎月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す

◎十日發行の分は稍や平易實際の記事を事にし、第一、家庭の整理改善に益あるべき事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學宗教及び教育等に對する吾儕の卑見を陳述し、大に世上君子に問はんとするを旨とす。

◎單に十日發行の分のみ又は廿五日發行の分のみと指定して所望せらるるものあらば其の需めに應ずべし

●女學雜誌定價表●

前金	壹冊定價	拾錢
	半年分定價	壹圓
	一年分定價	貳圓拾錢
	（內國無郵税）	
	代金は總て前金にて御注文ありたし◎年末引續き購讀の諸君にて前金切れ候共御斷無之間は引續き發送することも可有之事	
廣告料	一行（廿七字詰）一回	前金拾錢
	同　三回以上	一割引
	同　六回以上	二割引
送金	送金は東京駒込郵便支局に宛て小爲替にせられたし◎郵便切手にて送らるる人は總べて一割增にて計算せられたし	

明治三十一年十一月廿四日印刷
明治三十一年十一月廿五日發行
發行兼編輯人　巖本善治
印刷人　布川孫市
東京府北豐島郡巣鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所　女學雜誌社
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場
（電話本局十九番）

前號第四百七十五號目次

◎社說
閨閥は女學の敵
佳人晩婚の恨
天長節の雨
◎家庭
多くの事に心労せり
陸奥錦木塚（蕉雨）
小兒の智慧（長汀）
兒童研究の近情
料理の談
◎文藝
女性の俳諧（曲浦釣夫）
◎史傳
ワシントンの父とゲーテの父
◎雜錄
群馬縣の公娼廢止　信夫さと子
亡友筆のあと
美のいろいろ（日本繪畫共進會◎白馬會展覽會◎深林谿を見る◎水おもしろい◎淺草長樂一座の奏樂、ユンケル氏と幸田孃の合奏、美術家とは何ぞや）
富士の姿（新體詩）　花影子
◎時文
文界雜評　なにがし
（基督教的文學思想◎基督教界の新聞雜誌◎日本基督教徒の文學◎万朝報の賣れる理由◎東京・大阪との文學の性質差違◎藤村の新體詩）
渭氏の英文典摘要◎俳諧木太刀◎高島秋帆◎日の出島◎緊那の東洋◎染泛新聞
◎片々◎時報

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

大日本女學會

總裁　小松宮妃殿下

副總裁　鍋島侯爵夫人

月謝は拾錢束脩も拾錢●會則は申込次第送呈すべし●昨年十一月第一卷發行以來毎月引續き發行●目下各卷共再版出來せり淑女達とく入會申込みあれかし

☞會員募集☜

●女學講義世評一斑

●女學講義は着實の方針を取り組織甚だ宜しく婦人の自宅教習所として最も適當のものなるべし第一回は滿二年を經て先頃講了し今度第二回の第一卷を發行したるが三宅秀氏の家事衛生後閑菊野子の家事經理三島通良氏の小兒衛生關根正直氏の國文土屋弘氏の漢文其他理化學日本地理文法作文作歌裁縫禮法活花點茶及史傳小説詞藻等ありて華實兼備せり浮華輕躁の風なく實益を主とする好雜誌なり●『讀賣新聞』本邦女子教育の甚だ發達せざるは實に慨歎せざるを得ず地方に在ては高等教育を受けんと欲するも就て學ぶの校舍なく爲に小學校卒業後直に學を廢するは遺憾の極と謂ふべし大日本女學會茲に見る所あり此程通信教授の法によりて女學講義第一卷を發刊せり（中略）高等教育を受けんとする女子の爲には極めて良好の講義録なり●東京朝日新聞』女學講義は卷首に皇后宮の御歌を掲げ奉り次に學科手藝科小説詞藻御伽譚雜錄雜報等を精選し其用意の周到なる所を見るべく優に女子必讀の講義として稱揚するを得●『教育時論』大日本女學會は女子教育の不振を慨歎し通信教授の方法に據りて女子教育の普及を圖り賢良貞淑の品性を涵養するを以て目的とす（中略）其擔任講師の如きも華族女學校及女子高等師範學校教授其他博士學士等なれば少しも申分なし●『帝國文學』中等以上の婦女にして高等教育を受けんとするものゝ必讀のものにして又此種のものゝ内にて最も卓絶したるものなることは夙に世の認むる處今更に予輩の呶々を要せざるなり（中略）予輩は編者諸氏の誠實熱心なる盡力によりて益々益々この女子教育の普及發達を圖りむねと賢良貞淑の品性を涵養する目的を果されんことを切望す

十月廿五日第十二卷既刊

東京市麹町區土手三番町　大日本女學會

裁縫教授の書

（渡邊辰五郎氏著）（三冊定價一圓也）

渡邊先生の裁縫に於けるは國中其名を聞かざるなし、坐右もし此書を備ふれば、女學生も主婦も、運針裁縫の道を獨學するに不自由はなかるべし、女學雜誌社に於て取次發賣すべし。

看護婦貸費生募集

東洋内科醫院

院主　高田耕安

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

出版書目

横山雅男著
婚姻論
正價金十二錢
郵稅金四錢

鈴木弘恭述
百人一首講義
正價金廿八錢
郵稅金四錢

同著
文法口授
正價金十二錢
郵稅金二錢

巖本善治著
吾黨の女子教育
正價金十錢
郵稅金二錢

若松賤子譯述
小公子
正價金卅五錢
郵稅金八錢

若松賤子英文遺稿
巖本嘉志子
正價金六十錢
郵稅金六錢

布川靜淵、小此木秀野合著
俳諧史傳
正價金廿七錢
郵稅金四錢

櫻井成明譯
腓立比物語
正價金廿八錢
郵稅金六錢

東京巣鴨村庚申塚
女學雜誌社

明治三十二年用極最上の日記簿

吾家の歷史

一家に必用の附錄あり

紙質極上等
洋紙印刷鮮明

（總金巾背金字入リボン挿美本）定價三十錢 郵稅六錢
（三角切落シ赤磨緣ヒラ金字入美本）定價三十錢 郵稅六錢
（折皮紙赤緣美本リボン入）定價三十錢 郵稅六錢
（上等折皮マーブルリボン入美本）定價九十錢 郵稅六錢

全國各書店及雜誌店に賣捌く

東京々橋區采女町廿四番地
發兌元 **警醒社書店**

女學雜誌
第四百七拾六號
明治三十一年十一月廿五日發兌

社説

當年の勤王論者

維新の元勳と自から稱する人々は、勤王論を廣告して幕府を倒したるなり。當時、徳川氏を罵しつて逆賊とし、其の政治を不忠とし、惶くも天皇を武藏の千代田城に誘ない奉りて、御親政を請ひ、万機の責を負はせ奉りて、初めて勤王の實を擧たりとせり。其の逆賊慶喜を征討し、徳川氏を不忠不臣と罵しり、總べての舊弊陋習皆な幕府に欝積して、古來二なき大惡政の擅まゝにせられたる如く言做したるは、猶は昨昔の事の如し。近代の史論明らかに之を揭げ、諸公の黨與現に其の罵詈を絶たず。諸公は則ち、勤王と維新とに畢生の責めを有するものなり、而して諸公方今の言動果して如何ぞや。

奇しむべし、當年の徳川氏、闃として皆な言はず、毫も現政府を非難するとなし。明治政府を困しめたるものは、維新の功臣のみ、徳川氏にあらず、明治政府に反旗を飜へしたるものは幕人にあらず、總べて元勳者の餘流のみ。試みに三十年間の歴史を見よ、徳川氏たるもの何等の復讐をか爲せし。徳川氏の遺臣、一個の血性兒すらなきか。江戸子を御すると三百年、關東の血に染まると五百年、沸々たる血性は其の八萬五躰に充滿せり、何んぞ必らずしも公卿の末と、長州人と、隼人の感覺とに劣れりとせんや。激氣、江戸城に澎湃として俠骨未だ枯れず、豈に夫れ一人の起つて今の藩閥を罵しるとを得るものあらずとせんや。而して幕人の末大率ね愼默して言はず、相約して、天皇の政府に忠勤を擢んで、偶ま隱逸するものは、楚辭を讀んで、吟懷を遣る。寧ろ是れ江戸子の激氣と相似ざるものにあらずや。

夫れ、幕人の敢て言はざる固より可し、何となれば一旦其の

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

城を明け渡したるものなれば也。之を彼の前内閣の人、閣を辭して忽ち後内閣の人を非るに較べて、何れか穩當なるや。明治の功臣常に互ひに爭鬪して、當年の勤王論を忘れ、其の總べてが敵手として好結果を見めすべき藩人の尚ほ現存するを念はず。夫れ、氷川先生の長廣舌を以てするも尚ほ未だ此論を駁して今の元勳を責めず、是れ其の惜しむ所を知ればならん。而して自稱元勳の士未だ嘗て省りみず、一難起る毎に、陛下を辭去し、嘗て昔日の勤王論を思はず。諸公たるもの尚ほ救しからずとする乎。藩人の子未だ論ぜず、江戸子默として答なし。其言はざるが故に知らずとするに至ては、諸公も亦た馬鹿者ならずや。

故大久保甲東の如きは能く恥を知れるものなりき、其の徳川氏を痛罵せし書生時代の空想を脱却し、初めて實地の衝に臨んで、新政の責任を双肩に擔ふや、所謂大抵意想外にして寧ろ悔恨の意なきにあらず。而も惻然として曰く、我證すでに皇帝に服從して社稷を武藏の原頭に促がし來れり、假令ひ蒸汁を嘗むるとも維新當初の志望を遂ぐべきの責任ありと。豈に眞の丈夫にあらずや。

今や政府財政に困窮し、總ての衰勢之より起れり。而して當年の勤王論者、現政府の元勳たるものは、家に數十百万の富を積め。○今の財政困難は、其の元づく所、日清戰爭にあり、諸公は之が爲に、勳位爵祿を增與せられ、子孫の計安然として成れり、而して國家は之が爲めに危うきを致せり。抑そも諸公が元勳たり功臣たるの所以は何所にある乎。諸公假令互ひに罪を嫁して其の過を他に歸せんとするも、試みに徳川氏の遺臣に對せば、總べて是れ新政の責任を有するにあらずや。たとひ小黨分裂の歴史ありとも、明治政府は即はち諸公が建設したるもの也。諸公たるもの何の顔色ありて逆賊僞者に對せんとする乎。

嗚呼藩人の默して言はざるは、諸公の爲に幸なる乎、果た不幸なる乎。南洲甲東の長逝せしは、諸公の爲に不幸なるか果た幸なるか。惟ふに彼等にして若し長存し、誤って今日の逆境に處せば、彼等は諸公をして其家に錢厘をも積むとを許さゞるなるべし。諸公にして彼等に後れたる寧ろ幸福なる乎。國家財政に困しみ、蒼生皆な窮す。而して維新の功臣は皆な富めり。上天豈に斯の如き人士に祝福せんや。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

財政困難

◎第二維新と喝采した評判は昨日のようであつたが、又もや第一維新の末路に逆戻りを爲た。多年理想にした政黨內閣の脆きと、秋の木の葉の如く、議會に尤とも多くの賛成を得て居ると云ふ內閣が、議會の開けぬうちに倒れて仕舞つた。其の役人がチラリホラリと風に散つて行く有樣は、情けなくもあり、亦た氣の毒にもある。

◎此の行先は一躰どうなるものである乎と、國民一同に心配をして、大抵は略ぼ絶望して居る。然るに、所謂る政治屋は依然たる空想家で、又もや一種の妄念をつくつたらしい。何時も〳〵其失敗の元因を他に嫁して自から顧みぬことゆゑ、多分一生涯此の調子で、丸るで降參すると云ふとは無らふ。今度は仲の惡るい二黨が合併したから失敗した、もし我黨丈けで擔當したら十分に遣つて見せると、コウ云ふ風にいつもいつも咎を他に歸して居るから、自分の過まちを發見すると云ふとが無い。もし其の一黨丈けとなれば、更に黨內の派と云ふものが騷々しくなつて、ツマリは同じとだ。然し、ソウなると、又た一派にさへなれば宜しいのだと云ふて空想するが、扨て又一派丈けとなつて見ると、更に派內の分裂にいぢめられて、ツマリは自分一人でなければ事は出來ぬと云ふように言ふであらふ。凡そ斯の如き我身勝手の人物は、所詮いつ迄も眞相を悟ると云ふとが出來ぬのである。

◎然らば、此の先はどうなるのであります乎と、國民一同の掛念に堪へぬやうであるが、その掛念に堪へぬ所が先づ第一に宜しくないとである。ソウ皆ンなが心配して何の爲に爲るか。國民と言つて別にあるのではない、ツマリ我々の集まつたものだ。其の集合躰の一人〳〵が互ひに心配だ〳〵と云つて心配して居るのは、抑そも誰の爲めに心配をして居るのか。もし自分の爲めでないといへば、則はち他人の爲めで、言はば他人の身代を勘定して悲歎にくれ、他人の痴氣を頭痛にやんで顏をしかめて居ると同じようなものだ。若し眞に之を憂ふるとならば、先づ第一に我身、我家、我職分、我に關係せる緣故の所々に出來る丈け盡力するのが、當然の道である。國民銘々此の覺悟をもつて居れば、國家は即はち自から治まるので、其外に奇妙不思議の捷徑と云ふものはない。玆に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

城を明け渡したるものなれば也。之を彼の前内閣の人、閣を辭して忽ち後内閣の人を非るに較べて、何れか穩當なるや。明治の功臣常に互ひに爭鬪して、當年の勤王論を忘れ、其の總べてが敵手として好結果を見めすべき藩人の倘ほ現存するを念はず。夫れ、氷川先生の長廣舌を以てするも倘ほ未だ此論を翳して今の元勳を責めず、是れ其の惜しむ所を知ればならん。而して自稱元勳の士未だ嘗て省りみず、一難起る每に、陛下を辭去し、毫も昔日の勤王論を思はず。諸公たるもの倘ほ恕しからずとする乎。藩人の子未だ論ぜず、江戸子默として聲なし。其言はざるが故に知らずとするに至ては、諸公も亦た馬鹿者ならずや。

故大久保甲東の如きは能く恥を知れるものなりき、其の德川氏を痛罵せし書生時代の空想を脱却し、初めて實地の衝に臨んで、新政の責任を雙肩に擔ふや、事物大抵意想外にして寧ろ悔恨の意なきにあらず。而も慨然として曰く、我輩すでに皇帝に屈從して龍駕を武藏の原頭に促がし來れり、假令ひ黄汁を嘗むるとも維新當初の志望を遂ぐべきの責任ありと。豈に眞の丈夫にあらずや。

今や政府財政に困窮し、總ての衰勢之より起れり。而して當年の勤王論者、現政府の元勳たるものは、家に數十百万の富を積めり。今の財政困難は、其の元づく所、日清戰爭にあり、諸公は之が爲に、勳位爵祿を增與せられ、子孫の計安然として成れり、而して國家は之が爲めに危うきを致せり。抑そも諸公が元勳たり功臣たるの所以は何所にある乎。諸公假令互ひに罪を嫁して其の過を他に歸せんとするも、試みに德川氏の遺臣に對せば、總べて是れ新政の責任を有するにあらずや。たとひ小黨分裂の歷史あるとも、明治政府は即はち諸公が建設したるもの也。諸公たるもの何の顏色あつて逆賊慶喜に對せんとする乎。

嗚呼藩人の默して言はざるは、諸公の爲に幸なる乎、果た不幸なる乎。南洲甲東の長逝せしは、諸公の爲に不幸なるか果た幸なるか、惟ふに彼等にして若し長存し、誤って今日の逆境に處せば、彼等は諸公をして其家に錢厘をも積むことを許さゞるなるべし。諸公にして彼等に後れたる寧ろ幸福なる乎。國家財政に困しみ、蒼生皆な窮す。而して維新の功臣は皆な富めり。上天豈に斯の如き人士に祝福せんや。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

財政困難

◎第二維新と喝采した評判は昨日のようであつたが、又もや第一維新の末路に逆戻りを爲た。多年理想にした政黨内閣の脆きと、秋の木の葉の如く、議會に尤とも多くの賛成を得て居ると云ふ内閣が、議會の開けぬうちに倒れて仕舞つた。其の役人がチラリホラリと風に散つて行く有様は、情けなくもあり、亦た氣の毒にもある。

◎此の行先は一躰どうなるものである乎と、國民一同に心配をして、大抵は殆ぼ絶望して居る。然るに、所謂る政治屋は依然たる空想家で、又もや一種の妄念をつくつたらしい。何時も〳〵其失敗の元因を他に嫁して自から顧みぬこそゆゑ、多分一生涯此の調子で、丸るで降參すると云ふとは無からふ。今度は仲の悪るい二黨が合併したから失敗した、もし我黨丈けで擔當したら十分に遣つて見せると、コウ云ふ風にいつもいつも咎を他に歸して居るから、自分の過まちを發見すると云ふとが無い。もし其の一黨丈けとなれば、更に黨内の派と云ふものが騒々しくなつて、ツマリは同じとだ。然し、ソウなると、又た一派にさへなれば宜しいのだと云ふて空想するが、扨て又一派丈けとなつて見ると、更に派内の分裂にいぢめられて、ツマリは自分一人でなければ事は出來ぬと云ふように言ふであらふ。凡そ斯の如き我身勝手の人物は、所詮いつ迄も眞相を悟ると云ふとが出來ぬのである。

◎然らば、此の先はどうなるのであります乎と、國民一同の掛念に堪へぬやうであるが、その掛念に堪へぬ所が先づ第一に宜しくないとである。ソウ皆ンなが心配して何の爲に爲るか。國民と言つて別にあるのではない、ツマリ我々の集まつたものだ。其の集合躰の一人〳〵が互ひに心配だ〳〵と云つて心配して居るのは、抑そも誰の爲めに心配をして居るのか。もし自分の爲めでないといへば、則はち他人の爲めで、言はば他人の身代を勘定して悲歎にくれ、他人の疝氣を頭痛にやんで顔をしかめて居ると同じようなものだ。若し眞に之を憂ふるとならば、先づ第一に我身、我家、我職分、我に關係せる縁故の所々に出來る丈け盡力するのが、當然の道である。國民銘々此の覺悟をもつて居れば、國家は即はち自から治まるので、其外に奇妙不思議の捷徑と云ふものはない。茲に

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

に一人の才子があつて、自から修めるとも、自から立つとも、自から愼しむとも爲ずに居て、遂りに人の世話計りやき、人の心得が惡るいとか、其の身代が危ふいとか言つて、夫計り八釜しく演說し、切りに悲憤慷慨した所が、實はチカシナもので、心ある人は笑ふ計りであらふ。然るに此の才子が更に其の慷慨の區域を擴張して、國民全體の爲めに此の筆法で演說したからと言つて、夫が何の爲になるか。實は彌よ可笑しな話しであるが、歷史傳記に憂國者の逸事が殘つて居て、何か國家の爲に泣くと云へば甚はだ高尙らしく聞える所から、コンナ才子のをしやべりが評判を取るのである。考へて見れば馬鹿らしいことだ。

◎國家の患と云ふものは、國民が其の國家を思はぬのにあるよりも、思ひ過ぎるのにある。國民が國家の事を思ふと云ふのは寧しろ病的で、不健康の時の事である。國民皆な國家の事を思はず、殆んど其の念頭に置かぬようになれば、國家は甚はだ有力であるのであるが、今日の如く列强相對し、互ひに其の隙を窺がふと云ふような時には、迚も其樣な理想には達しない筈である。然し、道理は則はち此處にあるので、國民が國家を思ふて切りに心配するのが善いのであると思つては大間違ひだ」と云ふことは承知して置ねば成らぬ。

◎然し、夫は太平の場合に言ふべきことで、方今の如き逆境に言ふべきことでない。今に際しては、國家の事を思はずには居られまい、今日の難境に際して其の樣な太平樂を言ふのは、國に不信切極まるものだと憤ふる人があらふ。成程、ソウだ。然し、其の憤ふる人に聞いて見たいのは、夫れでは君はどう言ふ成案があるのだ、君がヤッキになつて慷慨して居るので、如何なる經綸が行はれるのだと聞きたい。慨然として國に許し、慷起憤發して献牲の志を立つることは承知するが、左樣に日々慷慨したり心配したりおしやべりを爲て、何事が出來るか。一家一身の小事すら、慷慨では出來ぬ。慷慨はコケをどしだ。苟くも大事を成すものには、冷然として天運をまち、溶然として大機に通ずる所がなければならぬ。如何にあせつたからとて、夫で事が成就するものでは無い。試みに、今の慷慨家に聞たい、何等の成案があるのだ。

◎若し實に成案が在らば、落着き拂つて順次に夫を行ふ筈だ、何も其上慷慨するに足らない。世の不平家、失望家に慰

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

めを與へて、彼等をして安んじて其の職分を盡さしむるやうにするが宜しい。然るに何んぞや、いつも〳〵騒々しくはね廻り、心配だ、慷慨だと云つて、人の安眠して居るもの迄を起してあるく。何と云ふ不見識の事だ。民をして依らしむべし、知らしむ可らずなどと言つて、眞に國家の事を憂ひて居るものは、人には默て居る、可成く大勢の人に心配をさせまいと云ふ覺悟だ。一家に心配事があると云つて、旦那も、奥サンも演說ヲりして居る。息子も、學校をやめて慷慨ヲりして居る。權助も、オサンも、水も酌まず、飯もたかず、喋々と經綸を立てる。夫が即はち一家滅亡の元だ。

◎成程、今日は大逆境だ。三四年前から識者の夙に主張した通りだ。悲しい哉、其の都度、道を誤まつた事が多くあつて、次第に今日の如くになつた。今日は其の果で、前々に因があるのだ、もとより一朝一夕の事ではない。今更別段驚くともない、之に閉口するともない。元と因果の理法で斯樣なつたので、現に理法が行はれて居るのだから、又理法に從がへば、其の救ひ方があらう、何も失望するには當らない。天道に無理はない、國家には大法が行はれて居るから、譯の分らぬ個人を相手にするとは違つて、少しも杞憂を抱くとは入らぬ。其の筋道さへ踏んでゆけば、自然に直るものだ。天道は、日本帝國の上にのみ無理な制裁を加へたのではない、コノ逆境を與へて目を醒さして下された所から見れば、其處に警戒があるので、警戒されると云ふものは、挽回の出來る證據だ。無論、失望などをすべき譯は一つもない。

◎國家に取つての大事は、先づ外交と經濟だが、日本などはまだ列國のツキ合の中では新米ものだ、左程、大きく見られて居らぬから、外交上の困難と云つても、まだ〳〵ホンノ初歩である。今日の逆境は、經濟から來て居るので、ツマリ入用の不足を生じたと云ふ所から種々の現象を呈して來たので、別に不思議はないのである。

◎其の經濟の困難と云ふものも、今ではまだ絶頂には行かぬ。償金繰替とか何とか言つて、まだ遣り繰りの付く時代だ。此の時代を通り越し、借金をする道も無くなつたと云ふときに、絶躰絶命の經濟難に逹する。丁度一身一家の財政困難と同じ振合だ。夫で、財政改革と云ふものは、いよ〳〵モウ何とも出來ぬ、二進も三進もゆかぬと云ふ時になつて初めて、

大覺悟も生じ、大融通もつくものだが、其の以前には中々仕方をつけると云ふとが出來ぬものだ。夫も、達人があつて夫に全權を委ねられると云ふやうに爲れば、又格別だが、寄合身上に、寄合評議、番頭が入かはり立かはりして、あとにまだ〳〵小工夫を獻ずるものがあると云ふ場合には、中途で財政一新の機を轉ずると云ふとは中々出來ぬものだ。然し、いよ〳〵其の極に達して、機一轉するに至れば、所謂る局面一變で不思議に人の氣が乘つて來るが、其中途の遣り繰りに苦心して居る時が、一番人氣阻喪するものだ。今日が即はち其の時節である。

◎茲に、行燈を點して、ノレンをさげて居る古風の商家があつて、財政で倒れた。別に、電話をかけ、電燈をともして、樣で仕上たと云ふやうな今風の商家があつて、夫も財政で倒れかゝつて居る。コノ二つの例を目前に置いて、よく〳〵其の盛衰の所謂を吟味して見ると、舊幕風、文明風の風は違ふが、其の倒れる趣むきは同じとだと云ふとが分るものだ。あれは古風で、之は今樣だから、經濟難の工合が根本から違つて、經濟の理法が同じでないなどと云ふものは無らう。其底

で、舊幕府が財政で倒れたのと、今の藩閥政府が再たび財政で倒れんとして居るのと、實は其の趣むきは同じとで、考へて見ると、少しも違ふ所が無いのである。

◎德川幕府も、度々財政で倒れかけたのだが、其都度改革家が出て之を救つた。慶應の末は、財政困難の上に、外交の事が加はつたものだから、遂に全たく明け渡すととなつた丈けの事だが、其の財政困難の趣むきは、いつも〳〵同じとだ。即はち、繁文縟禮で入費が掛り、奢りが長じ、物價が高くなつた所に、無益なイクサを二度迄で續けて、國庫はスツカリ空になつて仕舞つた。今の財政困難も同じ筋道で、ツマリ日清戰爭と云ふとが、最後の大失策となつたのだ。家風家憲を嚴かにして、奢りを禁じ、たゞ勉強さへして居れば、木の伸る如く富も益すもので、其外に經濟の明法は無いのだが、功を急ぐものや、辛抱弱いものや、見榮坊などは、兎角、山師で、一時の僥倖を求めるものだから、ふとして大もうけをするともある。此の大もうけをするのが他日大損をするの基ひで、夫はキマリきつて居る。今日世上の實歷を見れば、比々として其の例證計りだ。あれは、因循だとか、才覺が無い

とか、古風だとか、氣が小さいとか云はれた手堅い家はコンナ逆境でもびくともせぬが、紳士紳商とか言つて、一代に大もうけをしたなどと言はれる人に確かな身代はない。今日幸はひにしてまだ沒落せぬように見えても、モ少し立つとキツト亡びる。其人一代は或は甘くやりくりをしても、二代とはキツトもたぬ。と云ふのが、ツマり俄かに氣が大きくなつて、愼しみが足らぬので、根本の心の用愼が足らぬ所から發する事ゆゑ、万事万行の上に失策を生じる、殆んど救ひようが無いのである。明治政府の功臣も、維新の大業がまだ少しも出來ぬうちに早や得意になり、爵だとか、金だとか云ふものに眼をくらまし、最后に、日淸戰爭の勝利に、相場が當り、俄かに突飛の事を仕た揚句の困難である。一家一身の財政困難と少しも違ふ所は無い、何も今更ら驚くとは無いのである。

◎左らば、其の救ひ方は如何であるかと言ふに、之も亦た別段に變つたとはあるまい。前に言ふた一家の仕方のやり方と同じことであろう。又、幕府の末と同じとであらう。其外に新工夫はあるまいと思ふ。一家の財政困難も、其極に達して一轉する。窮まつて而して通ずるのが財政の道であるから、トント詰つて來ぬと道が開けぬが、一と度び其の機に達すれば、前に考へた種々の小工夫は皆なダメだ、猛然として乾坤一轉の變化が行はれるのだ。コヽに至る迄は、中々人の決心がつかぬが、既に此處に至れば、大抵のものも翻然として分つて來る。尤とも、此處に至つても尙ほ分らぬものが、即はち乞食になるのだが、夫は非常の意氣地なしとする。

◎幕府の跡を引うけたのが、明治政府だ。幕府で財政に困つて投げ出したものだが、明治政府となつて、機一轉すれば、兎に角、道が立つて來た。初めは、夫はひどいもので、民部省の札とか、藩々の贋札とか云ふものもあつて、隨分、亂脈だが、兎に角、幕府の手では如何んとも爲る事の出來なかつた財政が、薩長の書生の手で兎に角引うけるとが出來たと云ふものは、機一轉し、勢一轉したからである。此の一轉する前には、遣繰り算段もあり、軍備擴張の入用(慶喜公の時)は藩々から募つたともあり、北海道でもうけようだの、外國貿易の税金を取らうだの、佛蘭西から金を借りやうなど、云ふ種々の財政案があつた。丁度、今の財政案と同じとだ。夫

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

が中々行はれないので、議論の八釜しいと、老中内閣の交迭すると、丁度、今と同じであつて、殆んど救濟の方が盡き、此上は何となるとであらうかと心配する時に、其内閣が變りさへすれば善からうと信じて居るお心よしの工合は、丁度當時の老中内閣が、誰になりさへすれば善からうと思つて居たと同じとだ。今日から考へれば可笑しなものだが、今日たゞ内閣の變動をのみ當にして居る連中は、他日振り反つて見たら丁度之と同じであらふ。斯樣に色々な方法が皆な無効となつた揚句に、幕府が忽然城を明け渡し、大勢一轉の機を決行した爲めに、財政の立て方が根本から變つて來た。之が根本的改革だ。今の財政困難を救ふのも之と同樣の事で、別に法がありはすまい。達人あつて全權を握り、早く其の勢を察して、決行すれば兎に角、然らざれば、勢の極まつて而して通ずるの道に由るの外はあるまい。左なくして、尋常の人が尋常の覺悟で根本的改革を行ふなどゝは、勢ひを知らぬと云ふものである。

◎機の轉ずると云ふものは、妙なもので、機一つ變れば、人氣が一變する。たとへば、寢しは去年、起しは今年、一ねむり、寢し夜の夢は去年か今年か、と云ふほど接近した大晦日と、元日でも、たゞ一時の違ひで、機一變する。一變すれば、昨夜の鬼が禮に來ると云ふやうなもので、ガラツト氣が變つて仕舞ふ。氣が變れば、六かしく思つたとも、易くなり、腹の立たとも、可笑しくなり、絶體絶命と思つたとも、自づと道が開けて來る。之れが機一轉と云ふものである。左れば、今の財政困難も、たゞ其局中に執着して、其區域の内で運りに法方を考へると、所詮、道もなく、出處もなく、寸前闇黑で何の見込も立たぬようであるが、靜かに考へて見ると、物は決してソンナ窮屈のものではないと云ふとが分る。

◎財政困難々々々々と云ふが、無いもので辨じようとするから困難なので、分相當にして困ると云ふとは無い。例へば、軍備擴張の爲に困難だと云ふから、其擴張を延してはドウウダと云ふと、左樣仕たいが、軍人に反對があると言ふ。夫なら軍人は國家が破産しても構はないのかと言へば、ソウでは無いと言ふ。夫なら、譯の分つたとで、自から其間に救ひの道が立つて居るではないか。困難だと云ふのは、自から困難にするのである。夫もまた機運で。軍人の八釜しいのが恐

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

ろしい〳〵と見える時節もイツノ間にか過て仕舞ふ。四十萬の士族の廢刀を決行した工合でも分つて居る、機が轉じさへすれば、何の事はないのである。尤も、今日でも其の機が無いのではない、機は何日でもあるが、人の機根と云ふものが樣々であるから、其の機根相應な機會に乘ずる丈けの事だ。されば、今日の名士方が連りに運動される儘でも、モ少し立つと改革の出來る機會が來ると思はれるが、今もし一達人あつて全權を托さるれば、今でも其の救ひの方針は直ちに立らるることゝ信じて居る。

◎元來、日本は帝政國で、昔しから國躰に變はりはない。たゞ其の政躰は色々に變つたが、大躰は、封建になり郡縣になり、互ひに交替する丈けで、其の一方に傾むけば、凡そ百年以上は必らず續くものである。德川氏の封建が二百五十年も續いて、今度は郡縣になつた。此の大躰の趣むきは今後まだ中々長く續くことであらうが、其の大躰の中の小波瀾は幾度もあつて、屢ば窮しては亦た通じ、極まつては又開けると、丁度、德川氏時代にも、三四十年目に一度づゝ改革のあつたのと同じであらう。左すれば、維新の初めが明治元年で、其の勢ほひは今後尙久しく續くことであらふが、第一維新、第二維新、第三維新と、三四十年目に一度位の改革即はち大機一轉の騷ぎは是非あるものと覺悟せねば成らぬ。之を喩へば、四季の如きもので、殆んど免かれぬことである。たゞ之に落膽せず、油斷せずして、其の一轉の方を考へる丈けのことだ。今は乃はち其の機會になつて、所謂る藩閥が城を明け渡し、一變革あらうとするの塲合だ。多少の逆境、多少の不景氣、多少の騷動のあるは、當然の事ではない乎。同胞徒らに苦勞することを止めて、之は事物の成行と勘辨し、寧ろ銘々の職分に盡力して、國家の根本となる事業を進歩させるが必要である。此の事は、如何なる世にも、如何なる時節にも切要の事であるから、始終懈怠なく、只管ら此の當然の職分に盡して、天機地運の自然に巡廻するを安んじて待つの外、決して明法はあるまいと思ふ。

不出戸知天下、　不窺牖見天道、

其出彌遠其知彌少

評論

廢娼是非

岡　村

明治十三年、群馬縣に廢娼論勃興したるを原動として、明治廿二三年、縣下に其論盛んなるを致し、延いて全國に波及して、一時の世論頗る喧々たりしが、其後是非論共に屏息して、之れを聞くこと稀に、ただ時々群馬縣會にて廢娼存娼の爭あるのみとなり、此頃また之あるを聞く。公娼を設置するの理由は、社會の秩序、衛生、及び行政の點よりすれば、惡疾の蔓延を拒ぎ、密賣淫の風俗を制するが爲に、公娼を設置して、公々然たる男子情慾の捨て處となすこと、恰も公共の溝渠、もしくは辻便所を設置するの類なりとするものなり。

妓樓はそれなほ監獄の如きか。世に惡人の種の盡きざることは、石川の濱の眞砂の如くなれば、從つて、莫大の國帑を費やして堅牢なる獄舍を設け、不逞の徒を之に監禁し、附するに典獄看守を以てせざるべからず。如斯くにして、而してなほ監獄は罪惡の養成處たるの譏あるを免れず。然れども、これ社會の安寧秩序を保護するが爲の需要なり。之を需要する所以は、罪惡の徒を減少せんとするの理想に基づき、監獄の改良といふものは、即ち此理想に歩一歩接近せんとするものなり。抑も監獄署の巍々堂々たるは、國家の誇に非ずして、却て其大辱なり、いづれの世にか、終に諫鼓苔蒸々たり、刑鞭腐朽し、獄裡また雜草を生じて之を不用に歸するの時代あらんことを希望とせずんばあらず。

妓樓はこれ即ち人間、其獸慾を制する能はざることを公告するものなり。獸慾は人類が榮光の冠に非ず。然るに道德未だ進歩せず、倫常普く行はれざる時代に當りては、凡人比々として之を追ふて奔る。之に奔りては、社會の清流を混濁するを恐れて、一局所にこれを隔入せんが爲め、公娼を設置することをなして、恰も惡水をして清水に混ぜざらしめんが爲に、下水溝を設くるが如し。公娼は止むを得ざるに出でたるものなりとするも、決して社會積極の要點に非ず、之を置くは之を廢せんとするの理想より出づるものならざるべからず。公娼は制限なり、制限の目的は廢止に在り。賭博の制

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

しがたきが爲に、僻地を限りて、其の公開場を設くべしとの說をなすも同樣の意見に由るものなり。

然れども深く究むれば、社會の淫行を制せんが爲めに、政府の公娼を設置するは、盜を捕ふるに、右手に劍を與へて、左手を細縛せんとするに等しく、また惡疾豫防の衞生上より之を必要なりとする議論なれども、遊廓と避病院とは類を異にして、其惡疾を培養する所なり。一方には勉めて之れを培養して、他方に之れを撲滅せんとするは、罪惡を敎唆して、之れを捕へ、以て囚人を增加せんとするが如く、また遊廓を以て傳染病研究所となすに等し。頗る徒勞の愚策なりと謂はずんばあらず。焉ぞ如斯きを以て、社會の安寧秩序の爲なりと認むべけんや。行政上よりして、獸慾の爲に妓樓を設くること、なほ罪惡の爲に監獄を起すが如くするは、謂れなきの甚しきものなり。然れども政府をして、なほ此愚策に甘んぜしむるものは、人間獸慾の要求の劇甚なるが爲に外ならず。

罪惡の看板たる監獄は人の忌む所にして、罪に觸るゝの徒も之を欲せず。未だ之あらざるの地に、誰か其新設を希望するものあらんや。然るに、獸慾の看板たる妓樓は、凡人毫も之を恥とせず、却てこれあるを以て土地繁昌の基となし、個人の財囊を肥さんとす。而も政府また之を利して、以て地方の稅源となすに至りては、いやしくも社會の進步刷新を圖るべき責任者の行爲として、甚だ其不可なるを見る。民を治むること、先づ德を以てすべし、利を以てすべからず。然るに商賈の利慾と、遊蕩者の獸慾との爲に、遊廓を許可して、所在地に惡風を充滿せしむること、これ豈に與に政をなすものゝ行ふべき處ならんや。

政府は罪惡を懲すの責あり。されど獸慾を保護するの任あらず。即ち公娼を設置するの道理なし。罪惡もまた一の獸慾なり、所を限りて淫慾の擅行を許可するとなれば、また所を限りて罪惡を公許するもよし、賭博公開場の如き其不可なるを見ず。

政府の處置は必ずしも賢明なるものに非ず、却て凡衆の愚論に制せらるゝこと多くして、公娼の事の如きは其最なるものなり。これ即ち社會人民を愚弄するものに非ずや。社會の良心のこれが爲に警醒せざる事、大に之を悲まずんばあら

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ず。公然大多數の女子の將來を誤まらしめ、惡風惡性を流布せしめ、猥褻の公開場を天下に誤らしむるは、健全なる國民の恥辱に非ずや。公娼は國民の恥辱問題なり。殊に苟も正義を思ふ男子の尤も愧づべき事ならずや。

公娼は社會の秩序、公衆の衛生の爲めなりとの愚論は、暫く其愚に委ぬ。而して廢娼の是非は、清濁の問題なり、徳不徳の問題なり、清徳を思ふものは、廢娼を是とせざるべからず。眞に秩序衛生に、存娼を必要とするものも、もと社會の清潔を冀ふものなるべければ、則ち廢娼を以て窮極の理想とせざるべからず。

シエークスピヤ新論　青柳有美

（天才に非ず勉強家なり）

エヂプト、フヰニシヤ希臘などの數多き流れ、みな聚りて以太利亞半島のローマに來り、茲に新らたなるローマ文明をなせしと雖ども、ローマ人や、素と、天才の民に非ず、寧ろ技能の民なり。之を天才と稱すべきもの、それたゞギリシヤ民族なるか。我れを以て見るに、シエークスピヤは猶ほローマ人の如し。世の之を以てギリシヤ人の如く、作られたるに非ず、生れたるなりと思ふは、至大の誤りならんかな。故にシエークスピヤの頭腦は、湧き出づる泉の如くならずして、多くの流れを入れて、また新らたなる流れを出す大なる湖の如しといふべきなり。之を極言すれば、その歌へるもの其作れるものは、創始神來のオリヂナル、センスならずして一たび之を先人に得たるセコンド、ハンド、センスなりとのこゝろなり。それ天才なるものは、概ねその智性早熟し、未だ長ずると多からざるに、早くすでに非凡の徴彰を示し、才氣の凌ぐべからざるを現ず。ベーコン白石バイロン、ダンテなど皆然らざるはなし。されどシエークスピヤに至ては全く之と異る。幼時何等の驚くべきものなく、異彩燦爛人目を眩する如きとあらず。二十にして凡骨世の常の如く、廿二にして漸く俳優の見習となり、別に抜群の聲あらず、廿九にしてたゞ僅に宮中附屬の俳優に進み、其始て『ロメオ、ヱンド、ジユリエ』の曲を出せしは、すでに一生の半を超たる卅三歳の秋なり。之をかの三歳にして能く眞の文字を臨書し、六歳にして七言絶句を講じ、十

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一歳にしてよく手紙の代書せりといふ白石の徒に比し、其懸隔實に尋常ならざるを見る。もしシェクスピヤにして、自然の天才なりせば、必ずや茲に至らずして、その英鋒を漏らせしなるべし。かの卅にして漸く起てる基督すら、十三歳の頃エルサレムの宮殿に時の教法師を苦るしめ、四十にして起てるマホメットは、若くしてカアベ宮殿定礎式の爭を靜めたり。シェークスピヤにして、果して作られたるにあらず生れたりとせんか、焉ぞよく一の異聞なくして卅八歳に至るべけんや。これ我が目して天才にあらずとなす所因の第一なり。

人は多く沙翁の作の、主觀を離れて客觀に入れるを讃し、所謂小理想をすてゝ沒理想の界に安定せるものあるを稱す。されば、かくの如く雜然として大小の理想を包容し、彼れと是れとに拘泥することなきを得しは、蓋し天のなせるチニヤスと言はんよりは、寧ろ古人の書を繙くこと多く、これを我が腦中に納めて、のち產出せるの結果なるべし。まづ乞ふ試に『ハムレット』に就て言はん。かのハムレットの獨語に『女とは、移氣の別名なり(Frailty, thy nnme is woman!)』『ニオべの如く全身皆な涙にて (Like Nibe, All tears) などの句あり。共に奇警を以て名あれど、こはシェークスピヤが作れるものならずして、古き希臘のユリピデスが劇曲中にあるものとぞ聞く。又ポロニヤスが其子ラーテスの佛國に留學せんとするを送て與へたる訓戒の如きは、處世交際の秘訣とも見るべきものなり。されど是又沙翁が言葉ならずして、リリーが『イユーフユース』より拔萃せしものなるは、ラッシユトンの明かに證明するところにして、辭むべからず。依て思ふに、シェークスピヤなるもの、素と絕大の才力ありしにあらざるも、廿二歳にしてブラックフライヤ劇場に入り、俳優の見習となりしより以來、刻苦勤勵止むとなく、幼時少く學ぶところありし希臘拉典の古語にたよりて、ギリシヤ、ローマの作家を跋涉し、又譯本の助によりて、諸國の文學に通じ、凡百の思想、其胸中に雜居せるに至りたるや必せり。又モンテイニユの譯者フロリオは、沙翁に敎ゆるに、以太利及佛蘭西の兩語を以てしたりといへば、其多讀家なりしや蔽ふべからず。かの『テムペスト』のうちなるゴンザロが夢想の共和國は、全くモンテイニユより寫せしものに過ずとのとなり。かくの如にして俳優の間に學び蓄ふると十有數年、よく劇道の呼吸消息に

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

精通し、遂に大シェークスピヤをなすに至り、變通自在、物に應じてその蓄積するところを出せば、所謂沒理想の觀をなすなり。是れ我が、シェークスピヤを稱して、ギリシヤ人の如く天才の士ならずして、ローマ人の如く技能の人なりといふ所因なり。嗚呼シェークスピヤの大や、自然の大にあらず、勉強を以て仕あげたるの大なり。之をシェークスピヤが天才を非定する第二第三とす。

天才の士人、また多くは財のことに習はず。古往今來所謂ヂニヤスなるものにして、金錢を蓄ふるに巧なるものありしを聞かず。かのバイロンの如きは、其著きものなり。然るにシェークスピヤは之に反す。自らブラックフライヤ、グローブの兩劇場に株主となり、巧に利益を占め、其給金及著作出版の利潤を積みて大金となし、之を投じて所々の地面を購ひ、一族の光榮を媒るにつとめ、乾麥を我れに買て、これが代金僅に一磅十五志十片を拂はざるに依り、之が告訴をストラットフォルドの法庭になせしが如きに至りては、殺風景も誠に極れりといふべきなり。是等のことをや、ヂニヤスの列底よく忍ぶべからざるものなるも、技能の人の、よく試み能くなし得るところなり。是れシェークスピヤを天才に非ずとなす第四なり。此くの如くに思ひ至れば、特別の天恩なきわれら、亦或は作られて沙翁の如くなる能はずと觀ずべからず。人間の花とも見るべきこの人も、亦遂に生れたるに非ず、作られたるなりけり。聞く、羅馬公教の聖徒は心のしるしにもと、光る蠟燭の燈をさゝげて、其聖者の御像に捧げど、中には煙多くして、却て聖き御顏を汚すものありとかや。我がさゝぐるこの一篇、もし不幸にして煙多く沙翁の御影をくもらすこと多しとも、詩仙大人願くは之を享けよ。

文學

楊貴妃論

長汀漁史

昔し唐の玄宗の御代に、楊家に女あり、太眞と名づく、天成の麗質、自から棄てがたし。帝傾國の美を慕ふのあまり、之を後宮に迎へて、晝夜の恩寵を專らにし、三千の佳麗をして、一時に顏色を失はしめたり。楊氏の一門、これより光彩を生

じて、子弟みな朝廷に上り、顯官を得て、濟々たる一世の才俊を凌駕し、天下の父母をして、男を生むを悦びとせずして、偏に美女を生まんとを冀望せしめたりといふ。我所生の女子、貴人の寵倖を博して、家門爲に隆榮あらんとを思ふもの、豈にたゞに當年の事のみならんや。古今東西の父母たり、女兒たるもの、楊氏たり、太眞たらざるもの尠し。掖庭の力を頼むは、古來權勢を慕ふの輩の皆なす處なり。藤氏の專權は女を後宮に入るゝとに成り、北條氏九代の榮華は、二位尼の援引に由ると大なりとし、呂氏の權は呂后に在り。如斯きを稱して政略的結婚といふ、然れども其初め政略的ならざるものも、夫婿の權威は、閨後の耳言によりて窃に奪はれて、嬖倖の骨肉の掌理に投與せらるゝとを免れず。

古への女子、鏡面に對して、己が美色の棄つべからざるに自惚れ、人と較して、才の劣らざるを慢ずるの時や、苟も我が一生を托すべき所夫は、富貴の人たらざるべからずとて、果は女御、后に望をかけて、僥倖にして、其望を達したるはよし、達せざるものは、秋風の穴目々々に、衰へ果てし小町の最後となれり。氏なくして玉の輿てふとを、女子特有の理想と思ふは、これみな楊貴妃たらんとを希ふものなり。

世の古今を距つるによりて、時代の外觀自から異れりと雖ども、精神内容に於て違ふ處なし。明治の聖代、自由平等といひ、四民同比といふ、然れども父母たり、其女たるものゝ、楊氏となり、太眞とならんとするの理想、外戚となり、女御后とならんとするの希望は、形こそかはれ、品こそかはれ、同じく昔のまゝなるぞ哀れなる。

今は閨閥の力を頼むの才子、朝野に比々として充滿し、顯門富貴に膝を屈して、其女の智愚美醜は一切かまはず、財に頼み、勢に附し、阿諛して一時の女望を收めんとするの痴態は、竹取の翁に就いて、赫然姫を得んとせし三人の遊野郎の痴態よりも更に笑ふべし。同人既に之が愚を論じて、目して女學の敵となす。これ實に今の一大惡流行なり。さりながら、嘲笑すべきもの、豈に當世の才子者流のみならんや。父母苟も女あり、爲に夫婿を擇ぶ、必ずや富貴ならんとを欲し、顯榮ならんことを思ふ。たゞに父母のみならず、女の心もまた然り、而して東西南北に口を掛けて、望に叶ふ婿金を穿鑿す。娘が緣づいて、一生涯苦勞をせぬやうにと願ふは、親たるも

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の丶、子を思ふ自然の情なれども、いつ〳〵までも情一邊なるには非ず。表面にては或は、我娘は、何といふ大官に嫁したり、或は某といふ博士を婿としたりとか、或は誰といふ金持に嫁ぎたりなど丶いひて、人に誇りて羨まれんとの種となし、内密には、父兄弟が立身榮華の寄邊となし、困つたら泣寄りをして養つて貰ふまでの、卑しき根性を起す。娘を賣りて、左團扇で一生消すとは、鬼婆々の野心のみならんや、エラサウなる顔したる、娘持の人、皆然り。日清戰爭後、金鵄勳章を受け、年金を貰ひたる、若手無妻の軍人に、上官連より女を與れたがりたるもの甚だ多かりしが、これは、彼等が將來立身出世に望みあると、また安樂に送られるとの爲めなりしなり。大學卒業前の學生に、親切に輪をかけて、娘を嫁せんとする野心家も當世には多し。處女の望む處も同樣なり。人物の俊邁英逸なるを二丁目にして、立身といひ、出世といふを第一とす。されば英志なれども不遇なる青年、或は顯貴を塵芥視して、敢に盡くし、道に殉せんとするものは、容易に佳人を得がたし。父母は彼の如き貧乏人と賤しめ、娘は彼が野暮なる姿を振向きもせざるもの多し。往年は基督教

主義女學校出身者の理想は、傳導者牧師の妻たらんとに在りとしたるもの多かりしが、近年に至りては、金持名持の緣邊を求むるを希望とし、か丶る人に嫁して、錦繡を着て、金鎖を閃かさんとを熱願するもの多くなりたりと溢したる人あり、實に左もありぬべし。

當代は才子も閨閥を慕ひ、父母娘も亦緣閥を希ふ。吁、閨閥の世なるかな。彼新井白石が、未だ志を得ざるに當りて、上官なる河村瑞軒が、其娘を彼に嫁せんとしたるをば、伏龍、餌を喫るを忌むとて拒みたる如き、俊才に乏しきのみならず、其女を落魄不遇の士に與ふる如き貴人も稀なり。またピアノ一臺を財産として、乞食に等しき貧寒教育家に嫁して、一生、乾けるパンを涙に濕して食ひつ丶、萬代に自由教育の基を立てたるペスタロチー夫人の如きも少なし。竹田出雲が釣合はぬは不緣の基といひし、其不緣の緣を求むると、男女共に今や然ん。彼輕薄才子の卑劣根性は笑ひ置き、父母が可憐の俗情は兎も角も、凡そ佳人、學あり才あり、志あるもの、漫に權貴に附して、一生の安樂を貪らんとし、これを貪るが爲に、夫たるべきもの丶不身持にして、家の内外に數妾あ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

り、瓜子庶見の搖々たるをも厭はず、而も求むる處の安樂は畢竟苦心惱神の種となり、紅顔の春早く老ゆるを曉らざるが如きは、抑も謹で避くべきの事に非ずや。眞個有爲有德の人才を求めて、之を輔助して、退いては共に巖穴に志を脩め、出ては共に天下に有道を唱ふると、これ豈に有爲の佳人、舊つて歸すべきの一生に非ずや。女流苟も志をいへば、內助をいふ。然るに、如斯きは內助の最も大なるものにてし、また尤も愉快なるものに非ずや。

蓄妾問題の新研究

(蓄妾者の身分職業と妾の素性)

山形東根

蓄妾問題に就ては、余先きに『社會雜誌』に詳論したるとあり、本誌上にも其論議屢々揭載せられたりしが、妾を蓄ふる者の身分職業と其妾の素性に關する研究は、未だ試みられざりき。若し夫れ此一事を究むれば、斯問題の解釋上、甚だ有要なるを以て左に其一範を示さんとす。こは『萬朝報』の蓄妾實例によりて統計したるものなり。

(一)藝妓を妾とする者の種類

人の妾となるもの、多くは、藝妓と女中との二種なり、五百人の例中、藝妓を妾とするもの百八十三人を見る。

1 商人	五四	資產家	二	前軍醫總監	一
1 商會員	五	資產家の子	二	陸軍監督總監	一
1 相場師仲買	七	大地主	二	師團監督部長	一
2 會社重役	二〇	金貸業	一	新聞社員	一
2 銀行重役	二一	多額納税者	一	親方	一
2 取引所員	三	鑄工	二	未詳	一
3 貴族院議員	二	鑛山技師	二	總計	
3 代議士(過現)	九	神官	一		百八十三人
工場製造所員	九	知事	一		
大臣(過現)	七	俳優	一		
辯護士	七	宮內大臣秘書官	一		
華族	五	感化院長	一		
博士	三	內匠寮技師	二		
醫師	三	室內裝飾師	一		

(二)女中を妾とする者の種類

女中とは、仲働、小間使、下女、料理店の酌婦等を總稱したるものなり、五百例中、此類六十九名あり。

自家の女中		待合の女中		料理屋の女中		旅店の女中		計
司法次官	一	府會議員	一	文部勅參	一			
全書記官	一			遞相秘書官	一			
貴族院議員	三				一			四
前大臣	一							

代議士	二	衆議院議長	二		一	五
辯護士	二					
華族	七					七
教師	一					
陸軍々人	三	某中將の子	一			
商人	五	仝上	二	六		二
金貸業	三			一		四
待合料理店主	二				一	
取引(所)理事	二					
博物館長	一					
農商務技師	一					
家扶	一					
僧侶	[illegible]		二	五		七
仲買	〇		一	一		
醫院(院長)	〇			一		
北海道官吏				一		
會社長	〇					
合計	三十六		八	十八		三

右の表の外に、僧侶が牛肉店の女中を、講師が下宿屋の女中を、會社長が料理店の女中を、商人が銘酒店の女中を妾とせる例、各一あれば、總計して六十九名なり。華族と僧侶に多き、注意すべし

(三)**娼妓を妾とする者の種類**

娼妓は妾とするには、多少不適當の事情あり、五百例中、僅かに十七名の少數を見る、蓋し其性質を察するに足らん。

商人	六	侍醫(博士)	一	醫師	一
機械製造業	一	家令	一	僧侶	一
植木屋	一	壯士役者	一	海軍大佐	一
銀行頭取(再)	一	工場支配人(再)	一	會社役員(再)	一

總計十七名

(備考、(再)とは、二人若しくは二人以上を蓄ふる人にして何れにか記されし者を指す、以下此例あるべし)

(四)**養女を妾とする者の種類**

名義を自己の養女として其實妾とするものあり、他の養女を妾とするあり、五百例中、十五名あり。

待合の養女	陸軍少將	一	木綿問屋主	一
	銀行頭取	一		
自分の養女	手品師	一	料理店主人	一
	大審院判事	一		
某々氏の養女	會社長	一	貴族院議員	一
	某家	一		
	俳優	一	華族	二

妾の養女—刀劍鑑定家 一
料理店の養女—代言事務所長 一
引手茶屋の養女—華族(伯) 一

總計十五名

(五)**女將を妾とする者の種類**

女將とは待合、旅店、引手茶屋、藝妓屋の女亭主を指す、此種の者を妾とする者、五百例中、十七名あり。

	待合の女將	藝妓屋の女將	引手茶屋の女將	旅店の女將	料理店の女將	計
會社重役	二			二		四
辯護士						
代議士	一					一
醫師		一	一			二
僧侶	一		一			二
旅店主	一		一			二
仲買			一			一
金貸業					一	一
講談師	一					一
官省受負業	一					一
灸點業	一					一
[illegible]方	一					一
合計	九	一	四	二	一	十七

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

（六）藝人を妾とする者の種類

藝人を妾とする者、世間に多きも、此には僅かに七名を見るのみ。

	女義太夫	三味線師匠	長唄師匠	清元師匠
商人	一			
僧侶		一		
旅宿主人			一	
料理店主人				
公證人	一			
ポンプ				
製造業		一		
計	三	二	一	一

計 七

（七）後家を妾とする者の種類

友人、又は主人其他知己の未亡人を妾とするもの、多く知人間と知るべし。五百例中、七名あり。

武部長 一　僧侶 一　金貸業 一　遊船所長 一
貴族院議員 一　番頭 一　町長 一　計七名

（八）素人を妾とする者の種類

斯に素人と云ふは、某の娘、姉妹等と記載せられしものを總稱したるなり、仔細に穿鑿すれば種々の素性あらん。

大臣 四（出入植木職の姉妹の例一、）　旅店主 二　大地主 一
華族 二〇　辯護士 一　仲買 一
貴族院議員 一　學校教師 一　（英國人）新聞社長 一
商人 一四（待合の娘一、引手茶屋の娘一、料理店の娘一（窃盗一人を入る、）　元高等官 一　織業家 一
　　　　　　　　　　　　　　書家 一
僧侶 七（車夫の娘一、料理店の女房の姪一）　前米國公使 一　寫眞師 一
　　　　　　　　　　　　　　刑事 一
代言士（辯護）三　內閣書記官 一　カン詰業 一
醫師 四（患者に來りし姉妹二人の例一、）　貴族院議長 一　鍋島舊藩侯 一
銀行會社員 五（待合の妹二、引手茶屋の娘一、）　侍從 一　多額納税者（待合の娘）一
金貸業 四（金の代りに娘を取りし者一、）　賞勳局總裁 一
神官 二　府會議員 一
軍人 三　某職工頭取 一　總計九十一名

（九）雜種の例

妻の姉を—妓樓主人 一
矢場女を—僧侶 一
女按摩を—僧侶 一
裁縫教師を—僧侶 一
電話交換手を—醫學生 一
妻の妹を—パン屋主人 一
產婆を—僧侶 一
女工を—技師 一
同職の妻を—僧侶 一
女共客を—御料局長 一

（十）妾の素性の未詳なる者

妾の姓名を明記するも、素性の不明なるものを妾とする者、七十七人あり、內に外國人六人を見る、

僧侶 九　華族 六　銀行會社員 七　商人 一〇
辯護士 三　代議士 二　勅選議員 三　金貸業 二
管理人 四　其他各一位にして總計七十七名

（十一）結言

以上、十項に分ちて統計したる所によりて、蓄妾者の身分職業と其妾の素性とを對照したらんには、種々の事項を發見し得べし、其説明の如きは今之を略す、而して右の總計を擧れば、左の如し。

藝妓を妾とする者	一八三人
女中を妾とする者	一六九人
娼妓を妾とする者	一七人
養女を妾とする者	一五人
女將を妾とする者	一七人
後家を妾とする者	七人
藝人を妾とする者	七人
素人を妾とする者	九一人
雜種の例	一〇人
素性の未詳なる者	七七人
總計	四百九十三名

（備考）萬朝報の例數は四百九十三なれども、摘出したる者あれば實際は其以下となり、本文に統計したるも摘出せしもの二三ありて依て四百八十餘位に見るを可とす

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

隨感

○至誠は善行にあらず

人未だ至誠の道に念ひ到らざるときは、淺薄輕陋なり、頑きを措くに足らず。既に、至誠の道に念ひ到れりとも、其の靈化道妙の活機に通ずるにあらざれば、亦た効益なけん。人往々、至誠の道を目し、善行の源となし、偏信せず、偏執せず、正直にして信義あらば則ち至誠達せりと思惟す、然そも淺い哉、夫れ至誠の德に到達せんと欲するものは、善行をもて修練せざる可らず、善行は則ち至誠に入るの門なりと雖ども、而も門を以て直ちに堂奧と爲すは誤まれり。凡そ至誠は、事物相感の際、自然に發す 喩へば、雷行いて石火發し、雲隊れて電光閃めくが如し、之を常住常然の德と云ひ、天來の現象とす。即はち尊とむべく、崇へずべく、且つ力なあるの所以なり。試みに看るに、花紅柳青みな自然にして其の誠なり、長江大山亦た其のマコトを失ふとなし、獨り人間自由の意思を與へられたりと稱して、屢ば曲歩逆行す。其の曲たり逆たる所以のものは、自から煩悶して中心一の矛盾衝突を意識するによつて之を知る。但だ彼の誠や、間隙あるとなく、疑念あるとなし、純一にして無雜、自然にして無意識なり。此をもて、其跡義理に適し、其の感化忠愛に合ふ、天人の同もに想まざる所なり。古しへより、人の經歷する所大率ね相似たり、稚にして無邪氣なる幼童より、我にして理利に拘泥するものとなり、中ごろ偶たま自省して少こしく反へり、終ち大いに修養して其の童に復す。此の童の爲す所や則はち天道に順じ、天工に助け、天運に樂し、天命に了せんと欲す。一念此に決定し、雜慮溶然として消み、練磨鍛よ涵身に熟して、我心、造次顚沛の間だにすら勃起せざるに及へば、則はち是れ天人相合し、彼我相應じ、內外相適し、以て我至誠思するの時なり 之を至誠の德契合すと云ふ。人苟し此の靈化道妙の域に進まば、快樂油然として生じ、天地恰如として宏く、精神かに和靜まつて、事宜に適せすと云ふとなし、豈に天神降助、聖靈感應の時にあらずや。至誠天に通じ、精神必らず成る所以のもの豈に他あらんや。則はち、

樂しんで至誠の道を思ひ、其妙に觸れて彌よ之に近づくものは、先づ善行德義の修練をもて其肉慾を縛し、以て其の靈覺を養ふ。紫霧茲に存すと雖ども、理想の彼處にあるを忘るゝなかれ。思ふて邪なきは我が事なり、天に通ずるは彼の事なり、人苟くも至誠の道を淺小にすると莫れ。

○至誠且つ學ぶ

日輪、東に上れば烏雀曉にさわぎ、羽ばたきして歌ふ。月、西山に徘徊すれば、草露、珠を落して、虫吟のさびしさに寄す。春花爛熳として香の高かりしと、紅葉の錦を着て末期を盛んにすると、同もに眺めあり。その何れを增減して敢て特更らに足らずと言はんや。物みな趣むきあり、各箇其の態を存し、其色を保ちてよし、安くんぞ互ひに怨望すべけん。但だ夫れ自からの自然に安んずると同もに、他の美くしきを眺め、自から平らかなると同もに、他の麗はしきを見覺えんこそ善けれ。安心のうちに進步あり、至誠の後に學問あるは、凡そ此わたりの心なるらん。彼の勉むる時に誠ならず、誠なる時に進まざるなど何れにか思違ひはあるべし。

○戀愛のまこと

母の兒を慈しむ至誠は、人之を尊しとす。郎の戀人を愛しむ至誠は、人之を恥かしとす。慈愛には執着あり、誤謬あり、之を正さずんばある可らず。戀愛にも高潔あり、邪氣あり、之を欲せずんばある可らず。たゞ夫れ男女の相戀ふは、多く其の青年血氣の最中りに於てし、太かに肉躰の慾望を混じ易ければ、過ちも亦多し、人の恥らふとあるは理りならずや。左れど、肉の慾元と惡しきにはあらず、肉其ものの爲には亦た自然の要求ならめ。蝶の相追ひ、虫の相鳴くに比へて、人間の肉慾を顚倒せば、其品大卑に似たり、何んぞ特さら恥かしとせん。但だ夫れ人は禽虫以上に立ち、彼等が自然の行爲に類するまゝにては安んじがたきの情あり、之れも亦た人の自然の情なれ、人すでに此の情あり、戀愛の肉に陷いるを恥づ、其の理想と合はざれば也。此をもて、戀は人の上品なる至誠と合せざれば、美妙の平安を與へず。戀に忌はしき煩悶を脫し、其の獻牲の眞心に滿ち、靈交に情を潜め、見ぬ思ひにあくがれ、長久万代の限りなき情懷にやつれて靜かに

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

他の愛を楽しむと云ふ境涯に達してこそ、愛は美しけれ。

○教書の翻譯

翻譯の難きは、譯との難きにあらず翻がへすとの難きなり。翻がへすとは彼を此に當てゝ、變通換態の妙を盡すを謂ふ、其精を存へて其の生命をうつすの法なり。故に、理に關するものに於ては、筋の傳へがたきを憂ひず、機の傳へがたきを憂ふ、美に關するものに於ては、文の移しがたきを恐れず、情の移しがたきを恐る。苟しくも、事の幽邃にして、符の玄妙なるもの、翻譯に接する時は、其の難き所以を諒了して、其緊要たる所に察知するの眼識なかる可らず。然らざれば、徒らに、假相に泥つみて之を認しとし、其の原相の深遠なる所に了悟すること能はざるべし。試みに、古池や蛙飛込む水の音の一句を譯して洋人に問へ、其の興味、幽味、天人秘闕の妙味なんぞを味ひ得なん人は稀なるべし。之れ其の翻譯の難きと、容受するの難きとに由るなり。今や邦人往々西洋の宗教書を譯讀し、其の幽味を淺しなど非難するものあり、輕々しく斷案して曰へらく、耶蘇教は佛教よりも淺薄なり

と。吾人必らずしも其淺薄如何を謂はず、たゞ讀者の用意太はだ淺薄にして、異邦の書を讀の覺悟極て幼稚なるを惜む。

○簡短なる信條

日蓮曰く、只だ南無妙法蓮華經と言へと。親鸞曰く、只だ南無阿彌陀佛と言へと。此の簡短なる題目と唱名とによりて人の救ひ全たしと宣言す。誰か其の信仰の偉大にして、其の主張の大膽なるに驚ろかざらんや。之を信仰箇條を煩多にして其の一小箇目の増減にすら畏怖するに比べては、懸隔はた如何んぞや。これは、之を薄信と小膽との故と言ふ。

○鵜や私なし

曾て鵜を用ゐて魚を獵するを見るに、漁夫特更ら食を與へず鳥をして餓うるとあらしめ、夕照波紋暗らく、魚清淺に躍るの頃ろ、之を放つて水中に入らしむ。鵜や羽ばたきして喜こび、奔泳して魚を追ふ。其の之を捕ふるや漁夫忽まち率いて其の嘴を押せば、鵜や無造作に吐出して、毫も惜しむことなし。此をもて頻りに魚を捕へて頻りに吐き、口味厭くとを知ら

ず、腹足るとを覺へず、遂に其嗜しみを休むことなし、然に於て其の樂を欠しうす、余惕然として歎じて曰く、鵜や何んぞ慾なき、其の慾なきを以て變ぜられ、其慾なきを以て樂しみを長くす、若し彼をして貪ならしめば其の一度び捕獲したるものは斷じて放たずと言はしめよ、彼の首は直ちに斷たれんのみ。老子曰く、天地之間、其猶三橐籥一乎。吹壺や、其の風を惜しむとなし、十分に吸ひ、十分に吐く、若し惜しむ所あれば其用なき也、外に棄られて破却せられん、彼惜しむ所なし、十分に吐きて則はち火焔を十分に高く、百工之より起る。故に奪ふものは奪はれ、與ふるものは與へらる、天工を私しせんとして能く得たるものは未だ曾て有らざるべし。

○木の葉の涙雨

秋の木の葉こそ終りの遁がらぬものを、雨にぬれて一入哀れに見ゆるに風さへ淺ましく吹加はり、とても枯るべきものを今すこしの容赦もあるべきに、涙ハラ〳〵と落とし、春の小雨にも似ず、サメ〳〵と降る、最と切めて母木の下に腐れ、其の肥やしの料にとて埋されん哉。

文部大臣論

國土の敎育の農漁山林にあるを樂しまざる時世は、文政の敎育に於て人を植るとを樂しむものは稀なり。宜なる哉、山の荒るゝと同じに人の頽れたるとや。

古しへは、宮中府中學校を以て鼎足となす。今の所謂る、宮内(内大臣)文部及總理の三大臣職を重しとする也。入ては皇帝の輔弼となり、出でゝは百官の責に任じ、退ぞいては育英百年の事に當る。其の學に講ずる所は、其の政に行ふ所、其の政に行ふ所は、其の帝に仕ふる所。臣たるもの此の抱負と此の責任とありて、初めてよく帝政國の政を爲すべし。今や、閣中の組織大に改まり、三大臣各別に分擔し、必らずしも一人者の相兼ぬるを可とせずと云ふと雖ども、其の責任の掛る所、其の職責の相連なる所、當に此の三位一躰にして初めて能く帝政の柱礎を立つる所以を知るべき也。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

今や、宮中の事に至ては、幸に德大寺侯の在るあり。侯や能く大、妙に是非の跡を晦まして、人目に觸れざると三十年、盛んに帝德を顯昭して、自から寂として聞えず。侯の地位に在りて而して侯の是非を言ふものなきは、是れ其の輔弼の尤とも忠なる所以にあらずや。國民、此の人あるに信任して、君側の常に清亮なるに感謝せざる可らず。

文相に至ては、極めて遺憾を存す。國民の大率ね之に望む所も亦甚だ遠からずや。彼等が文相に要求する所は、僅かに學校制度の變更に過ぎず、何んぞ其の小なるや。昔しは横井小楠、學校問答を著はして曰く、古來、學校より人才の出し例し嘗て無之候と、寔に是れ懇切の見解とす。然るに、今の文相の位に登るや、眼中たゞ學校あるのみ、國民の之に迫るや、要求たゞ學校あるのみ、何んぞ如斯して能く文政の偉大を望まん。

蓋し、文相の抱負は、國民の教育にあり。學校は只だ教育器關の一小部面に過ぎざる耳。安んぞ局促して之に拘はらん。然るを況んや、學校の科程、教科書の撰擇の如きをや、如此きは抑そも末節中の小なるもの也。

苟しくも身、文相たらば、國家惣べての教育的勢力、教育的機關を活用し、以て人才の開發に努力せざる可らず。身を以て道に殉じ、身を以て學に獻ず、之れ最初の事なり。身を下して賢に問ひ、身を落して德を歛す、之れ第二の事なり。凡そ遺賢は必らず尋ね、天才は必らず導びき、國家の美は必らず發揮し、國家の寶は必らず發掘す。若し夫れ、監獄と、病室と、妓樓と貧民窟と雖ども、其の仔細なる着眼より脫す可からず。大勢の趣むく所は必らず利導し、以て國風民俗の變遷に機前の教化を施こさゞる可らず。經濟と外交との餘波、尤とも盛んに民心を震駭せんとするに際し、極めて有力なる薰化を施こさゞる可らず。凡そ、校舍は社會に於ける一小家屋にして甚はだしく大勢々趣の如何によりて動かさるゝが故に、文相たるもの單に其の末に沒して、末流の渦盪にのみ苦心す可からず。一世の好尙、時代の精神の趣むく所に靈覺して、妙に機先を制し、厚く機後の克復、努力せざる可らず。之れ大臣として國家惣躰の文政に着眼するの抱負にあらずや。若し此の抱負なかりせば、須からく一學務科長となりて、内務大臣の下に隷屬すべし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

教化の契機は至て簡短なり

井上正鐵の唯一問答に云く、我父眞鐵なるもの、世の人の病にさゝられ、貧に苦しみ、家風あしく成りゆき、又は産れつき氣質あしく、身治まらず、九族を惱ますを患ひて、終に病となり、十ヶ年の間、寢食を忘れず、二階に引こもりて家內の者にも交はらず、晝夜思ひ念ひて諸の書により、考を驗すと、長き年月怠たらず、かく思ひに沈み玉はば、病ひ募りて命も危うからんとて、親族種々に諫むれども、改ためかふるとなく、終に十一年目にて某兄なるものに番代を願ひ世捨人となり隱居して老を待のみ其時某年六七歲の頃より拾歲に餘れるの頃なり然に我弟なるものありて母これを抱寢して某と父に起臥を同しくなせり故に父母同居せずして年月を送るしかるに父の學友三四人常に來て夜は雞鳴の頃迄も身を治め家を齊へ病者貧者又は老てたつきなきものをたすけ救はん事を論て止ず某し幼くして父の膝を枕とし或はいね又は覺て其言を聞しかれども其故よし通じがたになれ共自ら其中に成長なせしゆへ某が性となりて終にさま〳〵の學びを好み貧者病者老たる者をたすけんとおもふ心又止時なししなれども若年の頃は色に迷ひ强氣にして人に劣事を嫌ひて迷ひ惱めりしかしながら父が志しは習ひ性と成一日も忘るゝ事なく諸國遍歷して神儒佛の道に達したる大德の人を尋て教を受其說を聞しかれども少も心易からず身治らず貧を免れず九族睦ましからず兄弟みな安き事なし某誠に天になげき地にかなしみて我心の惡數身のつとめのつとまらず惰慢にして愼み守る事あたはず嗚呼かなしきかなや如斯にして年月送りて老に至る迄父の志しを繼事ならじと常にかなしむ事久しこゝに伊勢國に水野南北成者大神宮へ百日の間日參をなすに逢ふて初て相法說をきく勸善懲惡の道をきゝ大に其敎への難有事を知て京都の宿所に至て奴弟子となり是を學にたゝ麁食少食にして麁服を着る事のみ敎はしめのほどは勤がたく又如斯の事を勤たりとてなどか此所にいたる事あらんやとおもへども師命成が故に麥の熟し一椀を一度の食と定一日に麥一合五勺を以食とし菜大根の外さま〳〵の物を食せず息を臍下に納りつめ朝はとく起きて身つとめ穢なき水を汲齋を拵へ奴僕の業を勤め日々に淸水寺音羽の瀧にかゝり夜は淨き滿闇に身をくるみてつとめ誠く寢きがたきと半年計勤けるに不思議や其利益を得る事あり先麁食もたしして腹中よろしきを覺え精神健にして惰慢の心自ら止み美食を求る心なく麁服にして美服か求る心なく住居の美を好まず心自ら易く貧の思ひ失てこゝろ漏々數身を愼しみ戒しむる事皆し安く父母の恩、師の恩の尊き事を知る猶萬病に心配苦勞をなし七情に破れ又は美食過食惰慢にして身を動かざるが故におこる事を知る其後　白川殿の御門に入て神道の御教へを學びていよ〳〵其事を辨へこれに依て常に人に小食麁食麁服を勸め身體を動し正直を元として三種の御祓を唱へ候得ば病苦をのがれ自ら貧を免れ心自ら易く正しく身治り九族自ら睦ましとて教へ諭し申候又某しが宅に無緣にして多くの人を養ふ事と福貴にして病苦ある者又は子孫身持あしくして家を亂し九族に見放されし者も三種の祓をとなへ神明に祈願のこめ麁食麁服をなして日々にあゆみをはこび教へを受候得ば病は快よきを覺心は易く自ら身治るをもつて九族喜び神明初穗米又は初穗料をそなへ候と某が身につけざるよふに心がけ麁食麁服を着し貧にして學びがたくまたは病に苦惱を受世渡り成難き者助けて教るに祓の修行をもつてし神明の利益を受誠の人に成たまへと諭し候なり夫故食祿を貯へる事なくて其日〳〵に世を送るなり然ども神明の加護にて今日迄米錢に盡る事なく又貯はふるとなし家內の事しも某しは存せず候て唯日夜神明の成德を喜び天下泰平にして君恩の廣大成を仰ぎ三種の祓を唱へ候て此御惠みの御禮申上候事に候」と人を教育し、世を改革するの道他あらんや、實は極めて簡短なるもの也。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

雜錄

「冥途の飛脚」を讀む

八濱掬泉

冥途の飛脚は、即色單純なれども用意周匝、性格透徹にして而も辭句文章の絢爛綺麗なる、近松世話物中の傑作也。上卷は主人公忠兵衛が爲人、中卷は愛妓梅川と相思の由來、下卷は父親孫右衛門と對面の狀態を描寫しつ、一篇三章のうちに、男女の愛と親子の情とを總敍して、言々句々、讀者の紅涙を絞らしむ、殊に個の端役をも點綴せずして、能く這般の悲劇を作る。吾人は、傀儡子の人生觀に感じて、實に同感の情に堪へざる也。

（一）忠兵衛の性格

悲劇の場所は浪華にして時候は、暮れゆく秋の風物に愁の哀を忍ばする頃、主人公忠兵衛は、大和新口村の大百姓、勝木孫右衛門が先妻の一人息子にして、惡辣な若旦那氣質、義

母妙閑が述懷の條に、「母御前はお死りつて繼母がゝりのわざくれに、惡所狂ひも出來るぞ、と父御前の思案で、是の家督に貰ひしが」と、謂ひけるを、「年長た悴を、仔細あつて久離切り大坂へ遣はせしに」と、父親の言に對して考ふれば、繼母の義理ある愛情を楯に、若氣の惡性に身を持ち崩して、放蕩の三昧を盡せし故に、實父の孫右衛門も愛憎をつかして、遂に先妻が忘れ形見の忠兵衛を、泣く〳〵久離切りしは、忠兵衛が二十歳の昔也。

然れど縁は異なもの、難波淡路町に飛脚を渡世の龜屋が世嗣に、敷金持ての養子分となりし忠兵衛は、後家妙閑の介抱に、「商賣功者駄荷作り、江戸へも上下三度笠」に、父親に勘當され、大坂へ養子にゆきての後は、一は前非を悔いつ、一は養母を憚りつ、四年の間は堅氣に身を持ちし者の、商人の嗜とて、「茶の湯、俳諧、碁、雙六」と、諸藝の一通を習ふにつれ、氣も心も增長して果は、「延紙に書く手の角取れて、酒も三ツ四ツ五ツ紋の羽二重も出ず入らず無地の丸鍔象眼の、國細工に、稀男の、伊達な家に贅を盡し」、「千萬兩の遣繰も、筑紫吾妻の取遣も、居ながら金の自由さは、一分小判や白銀に、翼

のあるが如く』なる儘に、狹斜の巷に出つ入りつ、『色の仔細知り里知りて、暮るを待ず飛ぶ足の『重なるに連れ、端なくも島屋の嫖客と意地競爭、金銀づくの張合に、流石の忠兵衛も金に詰りて、不慮の罪過を犯すに到る。

斯る閲歷の間に淘冶られし身の、忠兵衛が性格を論ぜんに。上巻龜屋店の段に、三百兩の仕切金を懷中して『金懷中に羽織の紐、結ぶ霜夜の門の口、出馴れし足の癖に、心は北へ行くと思ひながらも身は南、西横堀を浮々と、やァこれは堂島の御屋敷へ行く筈、狐が誑すか、南無三寶と引返せしが、ム、我知らず此處まで來たは、梅川が用ありて氏神のお誘ひ、鳥渡寄て顏見てから』と、躊躇逡巡。渠れ敢て思慮分別せざるにあらざれとも、常に眼前の虛榮と一時の情欲とに激動されて、意志の活動、智慮の批判を見ること能はさる也。中巻越後屋の段に、朋友の八右工門が『身に應ぜぬ忠兵衛が梅川にのぼり詰め、島屋の客と張合ひ、五月より此方の揚詰、身請も此頃極り、百七十兩の内、五十兩手付渡したげな、それゆゑに方々の屆け金が不埒になり、當る處が噓八百』と、梅川の朋友女郎を相手に、『彼の手附の五十兩、何處から出たと思召す、身が方に來る江戸爲替、中で取て遣ふたを、それとも知らず請に行き、孝子の母子がいとしほや、上つた金は知てなり、渡せ〳〵とせつかれて、忠兵衛が戻した小判お目にかけふか』と包を解ひて燒物の鬢水入を出して見せ、忠兵衛が落魄の一伍一什うち語ふを、格子一重の外に立ち聞く忠兵衛は、『若い者に恥かゝせ、川が聞いたら死たかろ、懷中の三百兩、五十兩引拔て、頰へ擲付け存分言ひ、我身の一分、川が面目雪いでやらう』と、無念骨髓に徹して、空しく眼を怒らし身を悶ゆる折しも、八右衛門は尚ほも膝を進めて『此次は段々に偸盜見から土藏破、果は首切、如何にしても笑止な』と、他人の落目を嘲笑ながらの、陰口を聞いては、最早や魂魄身に添はず家の内へ駈上りて、『忠兵衛が身代の棚下ししてくれる、忝い』と、怒氣滿胸。八右衛門の膝に無頭と居懸りながら、『島屋の客に賄賂取て、梅川に妬を燒き、彼方に遣ふと云ふとか、措てくれ、氣遣すな、五十兩や百兩、友達に損懸る忠兵衛ではござらぬ、ア、八右衛門樣、八右衛門奴、サア金渡す、手形戻せ』と、包を解いて金子を取出さんとするところを、押へて八右衛門『こりや〳〵待て、やい忠兵衛、餘程

の痴氣を盡せ、其心を知たゆゑ、意見して聞くまじと、廓の衆を頼んで、此方から除て貰ふたらば、魂性も取直し、人間にならふかと、男づくの「怨だ」と、金子を突戻して、「定めて何處かの仕切金、其金に疵を付け、八右エ門仕た樣に瓶水入では濟まいぞ、但代りに首遣るかい、逆上詰た其手間で、屆ける處へ屆けて仕舞へ、エ、性根の据らぬ狂氣者」と、八右エ門が友達甲斐に、情を別け詞を盡して、割つ砕いつ諫むれども、「いや／＼仁義立て措てくれ、此金を餘所のとは、此忠兵衞が三百両持まいものか、女郎衆の手前といひ、身代を見立られ、何返さねば一分立たず」など、五十両の金子を押付けつ投付けつ、果は掴摺りしてさしみ合ふのを見て、梅川は涙に暮れながら梯子駈下りて、「情なや忠兵衞樣、何故其樣に逆上らんすぞ、梅川に血の涙の意見されても、はて笑しい、此忠兵衞をそれ程痴氣と思やるか、此金は、遁ない、八右エ門も知て居る、養子に來る時、大和から持て來て、餘所へ預けて置た金、身請の爲に取戻したぞ」と、強て自己を欺き世間を瞞りて、時間の虛榮名聞を貪らんとするに到る。

畢竟するに忠兵衞の性格は、意志薄弱にして虛榮、名譽の念慮に富み、世に所謂る見得坊、小才子などの人物なりしならん。故に梅川に對するの情も淺薄冷淡、隨て其の犯罪の原因も、色情の爲とし云はんよりは、寧ろ名聞の爲と謂ふべき也。其の名聞と云ふも、單に人前を繕ふの虛榮、見得の念慮に外ならざるべし。而して這般の性癖は、如何にして養はれしやと云ふに、本より遺傳の性癖なりしと雖も、其の習慣より得たる性癖は、重に家庭の影響の結果なりしならん。則ち幼時慈母に離れて、「母御前はお死やつて繼母がゝりのあざくれに、惡所狂ひも出來るぞ」と、繼母が義理の情愛の、卑屈なる家庭の中に生長しつ、僞善、輕薄、虛榮。猜疑、放逸の惡性を助長せし身の、重ねて龜屋の世繼となりて、「意見の仕度い事あれど、養子の母も、繼母も同然と思ふか、せひ／＼言ふより言はぬ身を、恥入らせうと思ふて眼を瞑つても、聞く處、見所に見て居る」と、後見妙閑が卑屈なる後見に、然なくとも僞善、虛榮、放逸の性癖を愈々助長せしめつ、終に龜屋の家の爲に、八右エ門の爲めに、名聞を害せられしと思ふ刹那に、自己の名譽外聞を回復せんと鋭意專念、果は養家の義理も、八右衞門の友誼も、梅川の意見も打ち忘れて、遂に悲慘

の最後をとげしこそ、實に哀と云ふもおろかなれ。

(二) 梅川の性格

男女主人公の戀を比較せんに、兩者の間に主客の差異あるを見る。則ち戀情の度合より言へば、梅川は主にして忠兵衞は客。忠兵衞の戀は淺薄なれども、梅川の戀は濃厚也。忠兵衞の戀は必らずしも梅川を俟たざるも、梅川の戀は忠兵衞を得ざれば成立せざる也。何となれば、忠兵衞は見得の爲に梅川を戀せしもの、名聞の爲に梅川に惑溺せしものなれば、名聞見得の爲には梅川ならぬ女にも、女ならぬ男にも、或は戀慕惑溺せしならん。之に反して梅川の戀は醇粹、清淨、單純、殆んど忠兵衞を外にしては、哀れ天地もなければ、世間も生命もあらざりしならん。醇粹なれば、表裏の念慮あらざる也。清淨なれば、利害の念慮あらざる也。單純なれば、理由の念慮あらざる也。若し人ありて梅川に、何故に忠兵衞を戀慕せしやと問はんに、渠は答ふるところを知らざりしならん。按ずるに渠の戀は表裏、利害、理由の念慮を離れたる盲目的の戀愛也。

例せば、越後屋の二階にて朋友女郎を敵手に、『ア、うたての

酒や、戀をする氣もあらばこそ、此の梅川が今の身を、少しは泣て貰ひたや』と、片時も情夫の噂を絕たぬ程の梅川なれば。女郎部屋の噂を立聞きけん、誰とは知らぬ嫖客が戯れ半分に、『女郎衆餘りぢや、此處にも人が聞て居る、如何なる男でそれほどに戀しいぞ、男がなふて寂しくは、お氣に入らずと、是にも一人貸てやろか』と、嘆きければ、『でも逢いたいが定ぢやもの、憎いなら來て叩かんせ』と、謂ふに到りては情緒纒綿、最早や世間の毀譽、前後の利害などを顧慮反省するの念は露あらざる也。忠兵衞と八右衛門との爭闘を聞いて、涙に暮れながら梯子駈下りつ、梅川は取摑む二人を左右に押し距て、皆な八樣のがお道理じや、これ手を合せる、梅川に許して下さんせ』と、聲を立て泣きながら、猛り狂ふ忠兵衞を引据ゑて、『情なや忠兵衞樣、何故其樣に逆上らんす』と、無理に宥めつゝいたはりつ、忠兵衞が言を皆まで聞かずに、『妾を人手に遣ともない、それは此身も同じ事、身一ッ捨ると思ふたら、皆胸に籠て居る、年とてもまあ二年、下宮島へも身を仕切り、大坂の濱に立ても此方樣一人は養ふて、男に憂目かけまいもの』と、松柏を生命の娘蔦も、裂けし樹梢を抱いて立た

んとする健氣さ、『斯うは誰がした、妾が仕た、皆梅川の故なれば、忝やら最愛いやら、心を推して下さんせ』と、口說き立て〳〵、小判の上にはら〳〵と落る涙は、男を恨み身を果敢なみの涙ならばこそ、滿足、感謝、渾身の血涙也。此金は穢ひない、八右工門も知て居る、かね〳〵忠兵衞の質情を知れる梅川も、一點の不審を懷かばこそ、遺言の言葉を眞に受けて、『サア〳〵此間に身拵へ』、べた〳〵した取姿、帶もきり〳〵と仕直しや』と、滅多に急かれて嬌顏媚態、何ぞいの、一代の外聞、明鏡泉下の香華、眼前も晴能して、寛りと出して下さんせ』と、死の手の一人を招くと知らざるあさましさ、[illegible]衞と微笑む女の顏を見て、忠兵衞はツツと泣き出しながら、『最愛しや何も知らずか、今の小判は堂島のお屋敷の急用金、此金を散しては身の大事は知れた事、今宵ら身の不運を果敢なみつ、女の膝に體を擲付て泣きければ、梅川も悚然と叫び出し、常も淚にわな〳〵と、『それ見さんせ、常々いひしは此處の事、何故に生命が惜しいぞ、二人死ぬれば本望、今とても安い事、分別据ゑて下さんせなう』と、立派に謂ひし詞の『生らるゝだけ生きらるゝだけ、前は死ぬると覺悟

しや』と、云はれて、『アヽ、左様ぢや、生らるゝだけ此世で添はう』と、生きる心になりし身の、梅川は忠兵衞に比して稍や世才、意地、常識あるが如く見ゆれども、夫は畢竟するに意識的の常識、意氣、世才にあらざるべし。則ち男に對する愛情の、其の心的作用に依りて無意識に起る世才、意地、常識ならん。蓋し、想ふに梅川の性格は、浮河竹の流に浮沈幾年の賣女とは思はれぬ程の、實意ありて氣の小さな、男を賴とする可憐な、おぼこの女性なりしなるべし。

（三）雜　俎

嘗て本篇を評せし人々のうちに、丹波屋八右工門を以て敵役の如く論ぜし人ありしと雖も、吾人は斷じて然か思はざる也。何となれば、江戶爲替催促の條に、『此の忠兵衞を人と思へば腹も立つ、犬の命を助けたと思ふて了見賴入る』と、忠兵衞が誠心よりの嘆きを聞て、『鬼をも挫ん八右工門ほろりと涙ぐみ、『可惜いと能う言ふた、丹波屋八右工門男ぢや、了見して待てやる』と、俠氣滿腹、純な友情に厚き男なれば、忠兵衞が行末を案じつ、『やい忠兵衞、餘程の痴氣を盡せ』と、故意と罵詈惡口を吐いて、忠兵衞の墮落を救はんと欲する工合、

實に元祿時代の俠客として恥ぢざるべし。蓋し、渠れ俠氣を衒ふて覇氣勃々、靜に前後の是非利害を較量して、靜思熟慮すると能はざる人物なれば、一旦忠兵衛が己の意に悖りて、『いや〳〵仁義立措てくれ、此の金を餘所のとは、これ龜屋忠兵衛が人に損をかけぬ證據、サア請取れ』と、金子を投出しつ投付けつ、義理を敵の忠兵衛が不埒な言分を聞いては、怒氣心頭に躍りて口角沸々『男の面に何とする、忝いと禮いふて、返し直せ』と、可愛さ餘りて憎さが何とやらの、匹夫根性をつのらせ、果は却て痛罵爭鬪、遂に忠兵衛をして懷中の封印を切るの止を得ざるに到らしむ。蓋し、八右衛門が行爲の結果より觀ずれば、恰も敵役の如く見ゆれども、倘ほ遡りて渠の動機を察せば、忠兵衛に對して一點掬すべき情緒を懷きしとを知るべし。

靜に眼を開ひて世相を觀ずるに、悲劇喜劇を問はず人事の多くは、主人公の性格それ自身が因となり緣となりて起りたるもの、案ずるに慈悲、矜恤、柔和、忍耐、好意の諸德のみ喜劇の種にして、奸淫、汚穢、邪情、惡念、貪欲の諸惡のみ豈に悲劇の種ならんや。蓋し、奸淫、邪情、貪欲を以て組成せる喜劇、慈悲、柔和、好意を以て組成せる悲劇こそ、最も詩人の同情を注ぐべきもの。想ふに巣林子、能く這般の理を達觀して、本篇を作せしならん。

楓葉片々

井華道人

◎英雄世に出づるは不祥

四海波靜かに、風枝を鳴らさゞる世に當りては、國を治むること、凡人に委して可なり。必ずしも達人英傑の心思を勞するに足らず。恰も軸滑かにして、車坦々たる熟路を通ずるや、良御は、轡を收め、手を懷にして、成るを見るが如し。時平かなるは、英雄偉人を促して、田園山廬に歸休せしむ。されど、道の當に險なるや、車馬を驅るは良御に在り、時正に艱なるや、凡人以て如何ともすると能はず、人々天を仰いで、英雄出ですんば我等を奈何せんやと訴ふ。時既に窮まり、運また盡く、英達の士の巖穴に隱れ、草廬に退けるもの、天

意と人意との迫まる處となりて、遂に止むを得ざるに起ち、一躍蹶起すれば、勢は其身に約せられて、事容易に成らん。夫れ逸人は時の止むを得ざるに起り、英雄は勢の迫まる處となりて出づると、古今の史乘を閲して、皆其然らざるなきを知る。嗚呼、家亂れて孝子を思ひ、國亂れて忠臣を思ひ、時艱にして英雄を思ふ。英雄逸人は亂世の用、彼等をして世に出でゝ事に當らしめざるべからざるは、抑も國家の一大不祥事に非ずや。

◎時世を識るは巖穴の士

誰か巖穴に隠れたるものを以て、彼等は既に世を遁れたるの士、焉ぞよく時世に明かなるを得んといふや。時を識り世に通ずるは、察々の明を抱き、英傑の資を備へて、巖穴に隠るゝ人士の始めて能くする處なり。抑も諸々たる野心を包藏して、主義なく信仰なく、たゞ閨閥、財閥、藩閥はた金閥の卑陋たる勢力に附して、名利榮達を貪るに汲々たる輩の如きは、進むも退くもみなこれ私心の奴となるもの。私心を蔽めり、明これが爲に蔽はる、然るに何すれぞ時世を達觀するの資を除さんや。今の黨人、國政を料理するを以て任となすと稱して、而も勢に附き利に趨り、昨の自由は今の保守と變じ、今の退步は昨の進步の化せるものたる怪々の現象を察するもの、誰か彼等を目して私欲の謀る處となれるものとなさゞらんや。然らば即ち彼等に時世を識るの明なきを知るべし。然るに尚彼等は、無明の酒に淘醉して、巖穴の士を嘲りて迂遠時に用なしとなす。されど國步いよ〳〵艱難にして、逆運既に彼等の力の及ぶ處に非ざるに至りてや、哀求して往て救を乞ふ處は誰ぞ。これ必ずや、嘗に其輕蔑したる巖穴の士ならずんばあらず。彼巖穴の士や、志一世に秀で、節萬古に芳しくして、而して名利を思はず、榮達を希はず。この野心なし、故に私心を挾むとなし。私心なし故に其名の蔽はるゝものなく、擾々たる塵寰を超脱して、眼光時運の向ふ處を察するに過つと稀なり。まことに時世を識るとは、彼等の謂なり。世に在るもの、山に隠れて經世の要を問は、智者の屢々爲す處、玄德の孔明を三顧したる、秦時の明惡に驚きたる、家康の天海に學びたる即ち是なり。荷も志まとに天下に在るものは、必ずまづ往いて教を巖穴の士に乞ふ。老子は藏室の小吏に隠れて、爲政の大

本を識り、孔子は之に禮を問へり。其性は衆望に反きて、天下を顧みず、爲に枕する處なくして而して、人道の蹤由を無窮に傳へたり。抑も巖穴の士たるや、其時を得れば則ち德し、其時を得ざれば則ち逐累して行くものなり。如斯くにして察々として當世を觀じ、其明の毫も物の蔽ふ處となるを惜めり。故に時世の趨向は常に其眼中に在り。

◎哀しき從軍紀章

招魂祭の日靖國神社畔を過ぐ。途に田舍びたる一老翁あり、胸に從軍紀章を懸けたるを見るや、予は爲に欷歔して咽せんとしたりき。老いの寄邊の愛兒を敵地に喪ふて、よしや御國の爲め、譽れの戰死を遂げたるよと、人には誇へらむ、今ははたこの御社に齋き祀られて、畏くも天皇の御祈を辱うするは、餘りある死後の榮なるぞとは思はんとても、此老翁、今日の大祭に遺族として招かれて、せめてもの思ひ遣りに、死せし我兒の譽の爲めと、下し置かれたる紀章を伴ひて、故鄕遠く詣て來つ、堂々隊伍を整へて、宮に詣づる兵士の群の、姿嚴めしきを見るらん時、今昔の恨、はたして那許りなるべきぞ、思ひやられて憐なり。榮えの印とせよとの大御言に譽を帶ぶるその從軍紀章の、鈍色めちて、足並きほふ勇士の其胸には耀かで、あたら老いさらばひて、もの哀れなる翁の胸にさびしく留まれることそ、絕えぬ恨みなるへけれ。

杓子定規

きよくは

人は兎角に規則を立てゝ法律をつくつて、他を制したがる動物である。彼は彼の規矩準繩を主張し、我は我の規矩準繩を主張して、互に睨み合ふ。それに又古聖賢の道を以て、規矩準繩となし、孔子、孟子、釋迦、基督の道を見ると、皆然りとなす。然るに物事は必ずしも、規矩準繩を以て律し盡すべきものではなく、古人の道亦規矩の中に在らず。既に規矩といひ、準繩といふ、これ事物の範圍を狹隘にするものなり。されば老莊の如きは仁義を規矩なりとて之れを小とし、坦々たる大道を說いて彼規矩準繩を以て杓子定規なりとして賤めた。然り、人の物事を量るに、一分一厘曲らない

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

度衡を以てするよは、極めて少くて、多くはクチ〳〵と謡んだ杓子や馴鈴を以てするものである。然るにこれを隠しむるの徒が、自身にも杓子定規をこしらへてゐるから可笑しい。昔、片目の大工が二人あつて、一人は右の目がつぶれて、一人は左の目がつぶれてゐた。或時二人で、一軒づゝ家を普請したに、出來上つて、左目明の方が、右目明の立てた家を見て、右に曲つてゐると笑ひ、右目明は、左目明のを見て、左に曲つてゐると笑つた。彼杓子定規〳〵といつて、他が少しく小喧くるしい事をいふのみは非難するのは、また自身にも得手勝手な一本の杓子定規を持つてゐるのであつて、かの片目を以て他の片目を笑ふやうなものである。胡麿を以て胡麿をいふもかやうな事である。杓子定規を廃して、當說無適なる大道に歸するならよいが、同じ曲つた定規を以て、是を爭ひながら、汝は大道を知らずと互に責めるは、片腹痛かたいといふべきである。

時文

文界漫評

なにがし

◎國字改良論

近時の沈滞たる教育界に、多少色気のあるらしく見ゆるものは、國字改良論なり。或は數年前の羅馬字會を再興して、此字を利用して日本の普通語を書せんとするあれば、また假名會なるあり、又別に新文字を制定して、之を通用ならしめんとするもあり、或は又使用漢字の數を制限し、且つ字體の煩しきを簡らんと唱ふるものもあり、また往々にしては、英語を其儘に採用せんとするものもなきに非す。

漢字の事は、固より古人は誇張りたるかなれども、其實我國の文字は頗る不都合なるものにて、從つて幼稚なる教育をなせるに留まり、其佛獨語などの、言葉多く、使用自在なるに比して、迚も及びもつかぬ事なり。英米人の言に佛獨西語なら六ヶ月、伊語なら二年、他の言語なら三年一年にて學習し得べきが、日本語は迚も容易には習び難し。これ日本文字の文法が支離滅裂にして、和語俗語漢語雅語ちやん〳〵に雑然としあつて、標準語さへ定まり居らず、書物も讀み得ても、話し出來ず、話し出來ても新聞も讀めぬといふ有様にて、加ふるに又、外人の嗜好に向けてむる丈し、変化なるものなければ、勉強する氣にもならず、まづ〳〵この様なたいさん宜しいに位かいへればよしとするのみ。これより見れば、支那語、朝鮮語の方、遙に便利よくして、外人間にも使用され易し。日本語なるものは、到底この八洲の内に封鎖されて止まるべき性質のものゝと見えたり。而も國民としても、開國以來の學語なりといへ、不便したかにて、特に維新以後、外國語の翻譯等にて、若手の熟語製造せられて、いよ〳〵混雑せり。かるが故に、國字改良論者なるものは、意見の如何に異なるにも關せず、要するに、内國には便利にして、外國人にも學び得られ易き文字を制定せんとするものなる

が、さてこれ、果して行はれ得べき事なるか。

元來我國通用語の十中八九は言語漢語に在り、而して國民の志想を顯はすものも多くは漢語なり、從つて新字みな漢語に出づ、これはさもあるべきとなり。されば羅馬字採用若しくは新字制定といふと雖も、之を使用するものは、先づ漢語によりて、念頭に思想を浮べて後に之を飜記することが自然なるべければ、其煩に耐へずして、たゞ／＼なる不便を感ぜん。また英語をのみ用ゐるとも、まづ／＼空論なるべし。羅馬字若しくは英語採用といふ如き改良說は、もし之を實行するとしても到底十年百年にして容く行はれ得べきものに非ず。また假名說の方も、假名の字形の甚だ不便なるが故に、これよりも、寧ろ羅馬字の方、用ゐて便利なるべし。されば要するに、これ等の國字改良論は、當分、語學者の空論にて了るべし。急激なる改革をかへんとする前に、まづ文章にも、成べく普通語を用ゐるやうにし、また外國語の名詞にして、之に適當したる日本語なき時には、これまでの如くに、わざ／＼小六ヶ敷新譯語を工夫することなくして、原語音の儘に採用すべし。この改良ならば容易く出來得べき事にして、これより進んで、層一層の改善に就かしむるとを得べし。

◎日本製の漢字支那に入る。

今の新聞記者などには、漢學の素養深きもの稀なるより、字義をとり違へて、平氣なるがあれば、甚しきは、字畫に魯魚焉馬の誤をなしながら、之を覺らずして、事に用ゐるが爲めに、活版屋にて、わざ／＼其通りの誤字を鑄造するに至れり。然るに可笑しき事は、近時、支那にて、日本好の改革者流が、切りに日本の志想を輸入するに勉めて、日本の新聞雜誌著書を飜譯するとゝなり、從つて日本製の漢字又は語などを用ゐて、日本語通らしく得意がるものありとの事なり。これ西洋のイヂオムス、またはスラングスなどを得意に用ゐて外國語通を氣取る類なれども、其始彼より出でゝ、我に於て惡變したるものを、彼に再び迎へて喜ぶは更に奇妙なりといふべし。

◎新聞紙は面白くなし

今に始まらぬ事ながら、此頃は、殊に新聞紙の面白くなき事も甚だし。東京の諸新聞既に然り、然れば地方新聞のつまらぬ事はいふを待たざるなり、新聞紙は、政界實業界の時事を敏速正確に報道すれば足れるものにてはなく、これも一種娛樂の具なれば、目に觸れて快感を覺え、讀んで面白きものならざるべからず。此頃の諸新聞に、往年の政治新聞といふ乾燥なるものより、追々脫して、いづれも此點に勉め、小新聞と大新聞とが漸々似合つて來たるが、やはりどれでも面白なきは、編輯が下手なるが故に外ならず。即ち新聞編輯の才能に富みたる記者乏しきが故なり。其中、時事新報丈は、記事の確否遲速は扱て置き、紙面を見ると、何となく心地よきを感ずると、迚も諸新聞の比に非ず。これに由りて思へば、同新報の主任者なる人が、世上に名高くもなく、編輯局に隱れて巧みに紙面を整理するが故に由るなるべし。其主任者の如きは新聞記者としては、他に秀でたる才能を有するものなるか。

◎忠孝を振り廻す

世界の日本が、苟くも宮廷に及ぶ時は、やゝともすれば敬意を失するがやうに思はれて、心地惡しきとあれども、之に反して、無暗に忠孝愛國の語を振りまはして、至尊を擔き出すに至りては、嘔吐を催さずんばあらず。かゝる徒は必ずや、偏狹者流にして、所謂國家主義とか、日本主義とかいひて、國是大進步の流潮に抵抗せんとするものにして、其陋說に勢力あらしめんものと、他の非難を拒がんが爲に、矢鱈に忠孝といふ。其手段や卑劣極まれりといふべし。彼等は眞に忠孝を思ふが故に非ず、至尊を敬するが故に非ず、却て表面を飾つて、內定、自家の私利を遂げんとするものゝみ。不忠、不孝、不敬これより大なるはなけん。彼等は日吉の神輿、春日の神木を擁して、朝廷に强求したる山僧の一層小膽なるものゝみ。

◎眼病トラホーム論　井上豐太郎講述　東京眼科病院藏版

此書は東京眼科病院長ドクトル井上豐太郎氏が、同院例月の茶話會に於て講述したるものにして、內外國盲人の統計、眼病トラホームの沿革、解剖的所要、トラホームの病理等を說きて、トラホームの恐るべきを簡易に說明したるものなり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

則に同病に附きての國家公衆及個人的衛生法を論じたり。近年トラホームの流行甚だしきとなれば、豫め此書の如きに就きて、其病性を識り、豫防をなすべきなり。

◎兒童研究　第一號

海外に於ける兒童研究の盛んなるとは、吾人の屢々耳にする處にして、我邦にては、前年元良博士等によりて輸入せられ、これが研究に從事するもの尠からず、既に久津見蕨村の「兒童研究」なる一書さへ出版されたり。然るに今回同研究を以て聞えたる元良博士松本亦太郎高島平三郎三氏の執筆にて、題號の如き専門雜誌出版せらるゝに至りたり。心理界、及び教育界を益すると必ずや多かるべきを信して、吾人は之を歡迎す。

◎新小説　第三年第十二卷　春陽堂版

本卷收むる處小説には内田魯庵の「うき世」田村松魚氏の「女紳士」にして、雜録其他には、露伴の「帳中書」紅葉の「新詩摘抄」長田秋濤の「露語夜話」後藤宙外の「政治小説」等あり。「うき世」は、兼ねて豫告に就いて噂ありし政治小説にして、作者が當世の潜に成りしものゝ由。一人の洋行歸りの有爲の政治家が、政界擾亂を憤りて、改革志に成るべき時に際し、其同門の亂により苦悩時々、不貞の妻は身を持ち崩し、終にいふべきといふ諷刺的悲劇小説なり。もとより飽き足らぬものなれども、近時の小説界に在りては、中々の出來榮えなり。これは創作に非ずして翻案なるべきかとの説をなす讀者もあれど、それは如何にや。

女界文摘雜俎　（本誌〆切後）

◎民法實施と女子教育	陸奥日報十一月一、二、三日
◎學校の三種（女子が學生に告ぐ）	教育時論十一月十三日
◎若き武女　漫言（武田仰天）	旬日雜誌十一月十一日
◎閨中林子　佐々木昌綱	民友報知十一月十六日
◎承前考（鶴山）	日本十一月十五日以後連載
◎我邦僧界の古習一九（眞宗主人）二	教育公報月刊第四號
◎世界に於ける女子將來の位置	國學院雜誌第九號
◎女子の教育（下）本多辰次郎	花の園生第八年第十五號
◎女性のしかり（三輪田眞佐子）	女鑑第百六十八號

片々

◎女子の中途退學を防ぐ法　に就きて當局者の考究中なるとは疾に耳にせる處なるが、今或る教育家の立案なりと云ふものを見るに（一）女子には特別に授業料を免除する事（二）女子には特別に學用品紙筆等の獎勵品を與ふる事（三）日々の出校は上級女子誘引せしむる事（四）教室及控所等は成る可く男女同一にせず而して専ら女教師をして其授業を擔任せしむる事等是れなり。（明治新聞）

◎米價いよ／＼下落して、十一月十五日よりは、府下白米標準相場一等五升八合となれり。これより先き、米價稍下落しかけてより、各飯場、寄席、觀物場等業者の傾向あり。矢大臣の一ぜん飯の、一錢五厘まで引上げしも、八厘に引下げたるもの多く、牛めし及び深川めしは、二錢なりしを、一錢乃至一錢五厘に改めたり。又、芋の燒きより、茹だし饂飩一たまを、一錢五厘にて賣るときは、非常に利益ありとて、新に開業する者多し。次に又、豆腐も、牛蒡大豆の燒きより、一丁一錢二厘に引下げし向多しといふ。

◎女羽織　近來年少き娘又は半玉のわけだし等にて、満紫五ツ紋の羽織を着る者多くなれり。

◎女賊の教育　播州に一女子あり、一日女賊、日月お蓮といふ小説を讀んで、賊となり、京都に於て數ヶ所へ忍び入り、遂に其筋の手にて捕縛せられしといふ。

◎女學雜誌前々號に對する批評の一二　社説には御信任説外二篇、評論には北米日本主義相接の末路、女學雜誌には女性の兩面外二件其他讀む可きもの多々（福島新聞）社説に御信任説、其他の論文も勤士家、男官輕視（閑話）寄光を顧る外三件（女學）女性の兩面外二件（評論）何妨猛の北米民主政の末路外教育雜談時文片々時報等不相變インタレストに富み男女必讀の好雜誌なり（秋田魁新聞）

◎米國の結婚法律　丁若國にては未婚の女子は、必ず相應の配偶を得るを法律に依りて定められあり。邦は凡そ未婚の女子妙齡に達すれば、皇室の侍女と稱へて宮廷に召集し置くなり。而して凡て男子の犯罪ありて刑に處せられたる者は、亦皆必ず是命ぜざるべからざる義務を負ふ。其犯罪にして輕き者は監獄中の幾多未婚女子に就き選擇する權利あれども、其罪狀重き者は之を擇ぶの權なし、無論の如き如何なる醜婦にても、官の指定するまゝ之に服從し、決して拒絶違背等を爲すことを許さず、されば如何様なる女子にてもズン／＼賣れ口は附くなりといふ。

◎米國婦人、人皮を用ふ　一米國新聞の報ずる處に據れば、近頃同國婦人間に人皮を以て製造したる錢袋、帶皮の類を使用するこそ甚しく流行する由にて、事

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の起原は解剖用として醫學社會に申請けたる人の屍體より、其皮を剝ぎ、之にて小さ物を造りたるが始めてにて、今は人皮製の財布を持たぬものは、婦人仲間に幅の利かぬ程の姿なりといふ。(時事新報)

◎血族結婚本條の修正意見　耳鼻咽喉科專門ドクトル金杉英五郎氏は血族結婚と聾啞の關係を論じ併せて新民法第七百六十九條の修正を望むとの一小册子を配布せり同書の統計によれば

第一盲啞學校統計表聾啞總計二百二十六人の内兩親血族結婚間に生れし者五十人(百中廿二强)あり其血族結婚の種類は

叔父と姪	二組
從兄弟姉妹	三十三組
再從兄弟姉妹	七組
從兄弟の娘を娶とする者	六組
遠き血緣の者	二組

第二東京耳鼻咽喉科醫院調査聾啞總計百八十四人の内兩親血族結婚間に生れし者三十五人(百中十九人五分)あり其血族結婚の種類は

叔父と姪	三組
從兄弟姉妹	二十四組
再從兄弟姉妹	四組
遠き血緣の者	四組

右の如く其聾啞となる者の從兄弟姉妹結婚の間に生るゝ者を最も多しとす依て左の結論をなす

子が望む所は血族結婚は可成的絕對的に禁止したし若し人間繁殖上其他の關係に不都合あれば六等親よりは之を許すも大過なかるべし云々

時報

◎女子職業學校々友會　神田一ツ橋同校卒業生七百餘名は、昨年同窓會の席上各自の製作品を出品し、抽籤法を以て來會者に購求を乞ひ、其金員を同校新築費中へ寄附したりしが本年も去る十三日其第二回を催したるに、來觀者は四千二百餘人にして、同會の製品賣上高四百五十餘圓在校生の製品賣上高六百餘圓ありしといふ。

◎弘前高等女學校設立計畫　弘前市に高等女學校を設くる計畫ありて、本年の縣會へ、費用を要求する都合なり。

◎千島報効義會　は豫てより婦人の移住に就て、計畫しつゝありしが、今や會長郡司大尉夫人以下廿人の婦人占守孤島にあり、夫婿兄妹相扶けて一意拓殖の事業に餘念なしといふ。本會の事業に對し四谷愛住町愛住女學校主小貝貞子女史等は、創設の初めより熱心に盡力する所ありしが、此度郡司大尉が同會事業の擴張の計畫あるを聽き、江湖の義人に檄して同會の爲にせんと欲すと。郡司大尉は過般事業擴張の爲めに歸京し、一昨日已に報告書編纂を終りたれば其筋に差出す筈なりと。

◎長崎の子守教養所　長崎婦人會にては、去る十八年子守教養所なるものを設け、子守下婢等を集め、日曜を除き、每日午後一時より同三時迄、無月謝にて修身、讀書、作文、習字、唱歌等の初等教育を授け居る由なるが、今度更に生徒を募集する由。尤も子守幼兒を背負ひたる儘、出所することを得るのみならず、子守下婢に非ずとも七歲以上三十歲未滿の婦女は其入所を許し、書籍其他の用具は一切同所より貸與若くば給與する仕組なりと。

◎女囚携帶乳兒救濟計畫　北海道監典獄以下同監司獄官吏の夫人等の組織せる婦人會にては、頃者在監女囚の携帶に係る乳兒を引受け、之を相當の場所に收容して、篤く養育せむとの議あり。其計畫粗ゝ熟し、遠からず着手の筈なるが其乳兒の數は凡そ十四五名なるべしと。

◎近江婦人懇話會　近江婦人懇話會は去月二十九日膳所村大養寺に於て秋季大會を開き日本赤十字社滋賀支部より幻燈器械を借入れ、幻燈を寫し座興とさなせし由。同會は創立以來滿一年を經過せしに付きては、當日創立一周年の祝賀をも兼ねて來會者に茶菓の饗應をなしたりといふ。

◎奇特なる老媼　山縣形東置賜郡中川村大字川樋は葡萄の産地なるが、同村の安部藤左衛門の祖母は、當年八十有餘の老媼なる由にて、十數年前より何卒美事なる葡萄を培養して、宮內省へ獻納致度とて、自ら丹精し居りし處、本年は殊の外美事なる實を結びたるにより、獻納致度旨願出たる處、過日宮內省より聞屆られたる旨通知を受けしといふ。

◎服部玉山女史　村瀨玉田氏門下の服部玉山女史は、前淸國公使裕庚氏夫人、並に令孃に繪畫を教授せし緣により、同公使歸國の際同伴して、淸國に赴き、昨日北京に着したる由。

◎伊東婦人會　伊豆伊東にて閨秀子等の設立する伊東婦人會は本月六日例會を開きしに、出席者六十餘名なりし由。

◎鹿兒島女子徒弟興業學校卒業式　鹿兒島女子徒弟興業學校第六回卒業證書授與式は十月廿五日開かれたり。卒業證書を授與されしもの十五名なりといふ。

◎札幌婦人協會　同會は愈々盛隆に赴き、目下會員は二百餘名に及ひたるが、去月六日には會員の手藝に係る製品の展覽をなしたりといふ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎米國より造花の注文　神田一ツ橋外なる共立女子職業學校にては、此度米國シカゴ府教育會より我國の八重櫻長さ二尺の枝二百本製作方を依頼され、已に出來上りたるを以て去る九日同府へ向けて廻送したるよし。

◎美談一束　孝女　秋田市渡辺ミエ（東京朝日新聞十一月二日）◎[illegible]村の烈婦夫の仇を討つ、台南縣港東下里新開庄村農民李春の妻藩沼（中央新聞十一月十日）◎家庭の龜鑑　北海道根室郡初田由良成田伊三郎の一家（小樽新聞十月廿九日）◎女の鑑、秋田市[illegible]町士族寺庭隆賢妹キス（二十五）（秋田魁新聞十一月三日）◎奇特の一家　三州碧海郡知立町九十八番戸小島喜蔵の一家（新愛知十一月十一日）◎孝子　信州北佐久郡作日村河井市次郎の男女三子（信濃日々新聞十一月六日）◎[illegible]　府下北豐島郡日暮里村字金杉農清田喜三郎長男[illegible]（中央新聞十一月九日）

◎津田渡邊兩女史　は本月五日米國を發して歸國に赴きたる旨通信ありたり。

◎若松の教育

若松は北地方筑豐鑛業の要衝にして九州の要衝に當たり事業は頗る盛大に人口は漸次增加して昔時の村落は今日の町と相成り其繁盛の速やかなる實に可驚之状況に候從ひて子弟教育の進歩の如き亦た著るしき事に候今ま項を分ちて述ぶれば

▲高等小學校　明治二十三年蘆屋の分校として設置されしも人口の增殖と土地の繁榮とによりて分校にては不便なるを以て廿六年初めて若松高等小學校と唱へ分立致候由當時は三學期にして卒業せしめ四學期よりは小倉に通學せざる可らざりしも三十年の學年度より四學期を設け尚ほ校舍をも新築して宏壯なる若松高等小學校を見るに至たり生徒の數は三百餘名に候

▲尋常小學校　明治七年の創立に候が開闢には旅舍或は飲食店に接し居れば教授上不都合鮮からず候殊に就學者年々增加して校舍狹隘なるの有様に候本年四月の調査に依れば就學義務生者の内就學者男三百九十四人女三百廿七人にて合計七百廿一人不就學者男三十人女四十三人にて合計七十三人就學義務未生者男三十人女三十三人にて合計六十三人に候之に依て就學義務生者と百分すれば男九十五人と一ト女八十八人と三八合計九十一人と九六の好結果に候亦た學令人員累年比較表を見れば

年次	就學	不就學	學令人員と就學人員との百分比例
廿五年	二九七人	三七九人	四、四厘
廿六年	四一三	二七二	六、
廿七年	五一八	二三五	七、
廿八年	六四七	一七八	七、八
廿九年	七二一	一二六	八、五
三十年	六四七	一一一	八、七

次ぎに生徒累年比較表を掲くれば

年次	男	女	計
廿五年	一七二人	一一九人	二九一人
廿六年	一八九	一三三	三二二
廿七年	一九四	一七九	三七三
廿八年	二二九	二一四	四三八
廿九年	二二〇	二一五	四三五
三十年	二三四	二二九	四六三

亦た修多羅尋常小學校あり生徒の數僅かに二百人を出です

▲私立幼稚園　一昨廿九年の創立にして保姆二名を附し幼兒六十餘名の入園有之成蹟頗る良好にして入園者漸次增加仕候

▲女子教育　當地に於ける女子の行儀は非常に廢頽し家庭の教育も放逸に流れ居り候木村某之れが改善を計らんとて尋常小學校の女教師授業の餘暇を以て裁縫を主とし傍ら讀書習字作文唱歌割烹の諸學科を修習せしむることとし昨年四月より開始仕り候教場は尋常小學校樓上の廣間を以て之れに充て四年を以て卒業の期と定め候目下の有様にては前途頗る有望にして入學女生徒も六十名以上に及び生徒の年令は十三四より廿二三に候今ま木村氏の意見に依れば若松尋常小學校專修科となし追て獨立せしめて女子裁縫實業學校となし高等教育を教授せしむへき希望の由に候本年六月曾我部知事來松の折全校に臨みて大いに望を囑し一場の教育談ありしとのことに候時々展覽會或は割烹會を催して實地技術の試驗を行ひて學業奬勵の一助となし居り候今日猶ほ淺きにも不拘實蹟の見るへき所有之候故土地の有志間にも非常なる贊成を得早晩完全なる女學校と成るに至るへく候

▲就學兒童奬勵　就學兒童の爲め校長及教員戸毎に就いて說諭しゝるの結果昨年十二月の調査に依れば就學兒童數凡そ八百人に對する不就學兒童五十人を出です候この五十人も不得止事情あり事實に於て就學し能はざるに依るとのことに候

▲好慣例　尋常小學校にては卒業して退學するときは紀念の爲め卒業生徒申合はせ校費にて購求し得可からざる器具を學校に寄附する慣例ありて明治二十五年よりこの例を始め候由其中にも算盤硯筆石盤の如きは多數の寄附ありて就學者の内若し貧困にして此等の器具を購買し得ざるものにはこれを附與するとのことに候

▲生徒の散髮教員自ら行ふ　多數生徒の中には長髮のものありて衞生上有害なる者亦たは資錢を出して散髮し得る資力なきものは有志者の寄附に係る散髮器械にて授業の餘暇教師自ら生徒の散髮を行ふ由に候尚は本縣下には往々如此好例あることに候（日下部卯次郎氏通信）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

明治女學校義捐金募集告白

明治女學校は、今を距る十又四年前、島田三郎、田口卯吉、木村熊二、巖本善治等が、發起創立せしものなり。時に、民間未だ私設獨行の女學校あるなく、但だ外國傳道會社の管理に係るものありしのみ。同志切りに之を遺憾とし、深く國粹に基づき、兼て日進文化の學術に適應せる、私立の女學校あらんことを熱望し、大隈伯、澁澤榮一君、其他、朝野諸名士の協贊を得て、創建せり。爾來、十四年、孜々、育英に盡力し、前後、入門生、一千五百名に超ゆ。此を以て、精神次第に貫徹し、校友四方に起り、將に擴張の機を決して天下に請ふ所あらんとする時、圖らざりき、去々年二月、隣家火を失し、校舍悉皆類燒に罹り、十年の苦心、一朝烏有に歸せり。

於此乎、天下同情の士、呼ばずして應じ、徇つて義捐寄捨せらるるもの、太はだ多し、就中、紡績會社數百の工女、相約して、其貸金の貯蓄を寄附せらるるあり。有志婦人、四方に游へて、一大慈善市を開かるるあり。甚しきは、結髮を廢して、其費を寄せらるるもの、若くは、食を斷ちて、汗血の喜捨を寄せらるるものあり、感慨與とに禁じがたし。如斯して、合計金六千圓を得、外に、勝海舟先生の武道道場、大隈伯の鐘樓、アリスミラー孃の外國教師館、ハーツフォルン孃發起紀念館、鈴木與一氏の教場一室、女學音樂會の音樂教場一室、中川嘉兵衞氏の默想室、等の建築預約を得たり。此に於て、災後一周年を期とし、東京府下北豐島郡巢鴨村に、校地五千六百坪、建家（二階造西洋館及日本家）一百二十坪を得たり。偏へに是れ・天下仁人非常の慈惠による。今にして、吾校は、舊に劣らざるの隆盛を復するを得たる也。

因て熟ら思ふに、今の時は、則ち昔時に異る。各府縣高等女學校新たに起り、四方到る處に、女子の普通教育あり。形勢亳も十四年前の寂寥たるに似ず。蓋し、女子普通教育の機關は、略ぼ具備せりと云ふべし。夫れ、明治女學校の初て起り、爾來天下仁俠の士の協贊を辱くせる所以のものは、自から特種の趣意あるべし。若し、四方普ねく供給し得る通常容易の盡力にして止まば、必らずや恐る、熱情同感の知己に孤負せん。故に、知る。今や更に一段の難を冒し、常に一歩進向の責務に任ずべき機會に立てりと。

之を以て、明治女學校第二期の教育方針として、今後將來に盡力すべきは、一に、有限若干名の女生に特種の普通教育を施すこと、二に、高等教育の課程を漸次に擴張し、他日女子大學の地位に到達せしめんこと、是れ也。

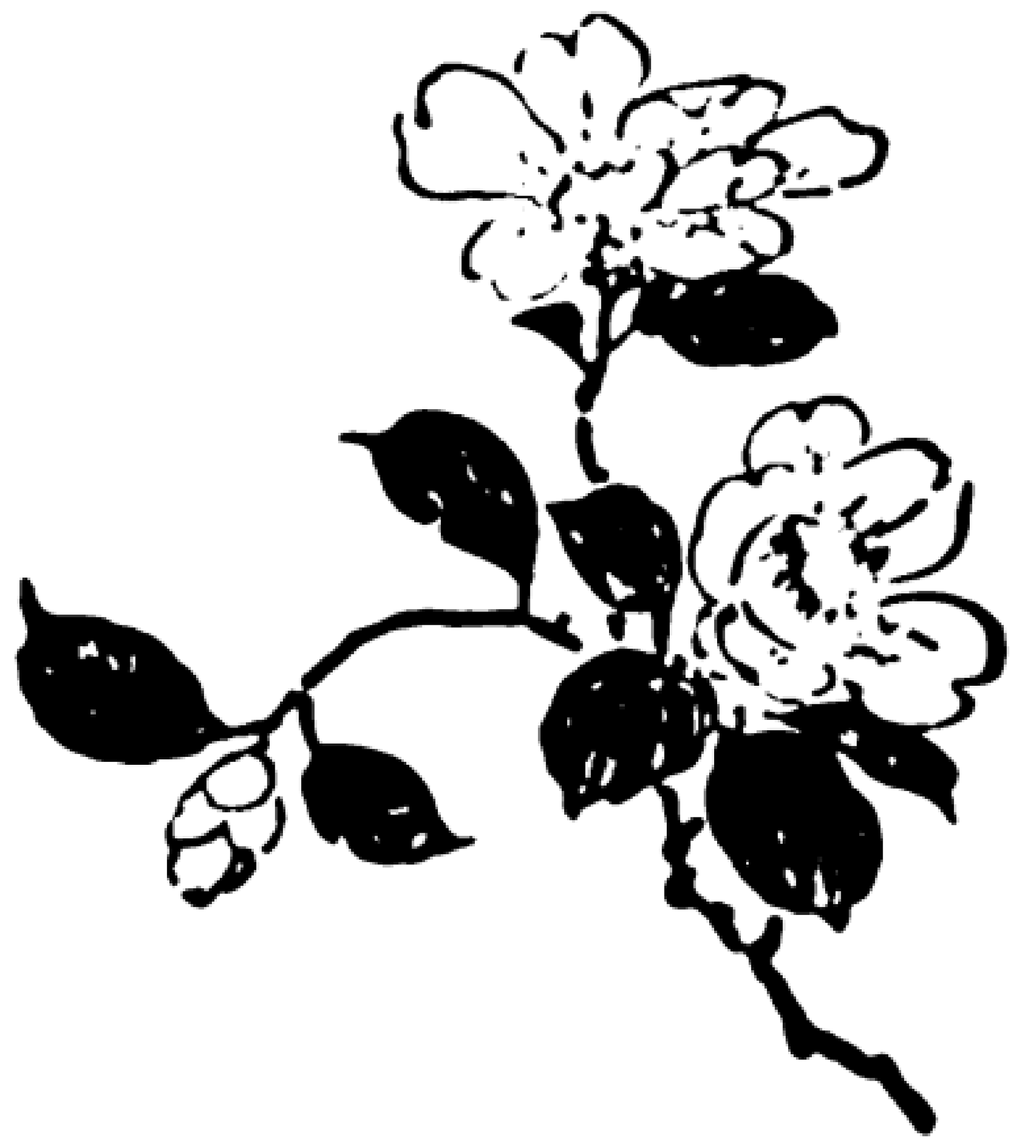
其一、特種の普通教育とは、家庭及修己の鍛錬に重きを置くべき普通教育にして、生徒多數の女學校に於て施こしがたきものなり。其二、高等教育は、十年前來既に施授したるものなれども、今後更に擴張し、彼の高等女學校卒業後の有志をして、遺憾なく學修せしむべき科程を具へんことを望むにあり。

夫れ此の如き二箇の希望は、今の時に於て尙ほ稀有に屬す。只管らに、仁俠の士の賛助を仰ぐにあらざれば、遂行極めて難し。則ち廣く校友を募り、着々方針を進め、歩々堅實の基礎を据えて、敢て退轉せざるの進歩を了せんとを期す。茲に初て擴張の途に上らんことを決定し、先づ基本金三万圓の義捐を各地方の有志に請はんとする也。仰ぎ願くは、天下博愛義俠の仁士、仔細に吾校多年の精神を吟味せられ、幸に同情を寄せ、惠然として賛助の恩を施こし玉へと云ふ。

明治三十一年二月

女學雜誌一手大賣捌
東京神田區表神保町
東京堂

明治廿九年三月十九日[illegible]可



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治廿九年三月十五日第三種郵便物認可